

第1回
東日本大震災の復興に関する調査
調査結果報告書

平成24年 12月

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
株式会社サーベイリサーチセンター

第1回 東日本大震災の復興に関する調査 調査結果報告書

目 次

調査結果のまとめ	1
I 調査の概要	4
1-1 調査目的	4
1-2 調査内容	4
1-3 調査対象者	5
1-4 標本数	5
1-5 調査地点	5
1-6 調査期間・調査手法・調査機関等	5
1-7 回収状況	6
1-8 標本構成	6
II 調査結果	8
2-1 対象者の属性	8
2-2 現在の地域の雰囲気	16
2-3 周囲の人との付き合いの変化	17
2-4 震災から1年後の心境	20
2-5 今後の居住場所を考える上で重視すること	25
2-6 生活（家計）、収入源の変化	31
2-7 復興支援として必要な施策	37
2-8 津波防災対策として重要な施策	37
2-9 ほか	38
III 使用調査票	39

調査結果のまとめ

東京大学情報学環総合防災情報研究センター センター長 田中 淳
 東京大学大学院学際情報学府 博士課程 小林 秀行

1. 傾聴調査の目的

復興計画に被災者の復興意向を組み入れるために、住民の意向調査が実施され、その結果が発表されている。しかし、被災者の話から浮かぶのは、明確に決断したわけではなく、希望と様々な制約の中で揺れ動き、迷っている姿である。被災者の意向をくみ取るということは、迷いを生んでいる制約を理解し、解決をしていく必要がある。本調査では、量的調査に加えて、被災者の話にひたすら耳を傾け、記録し、問題の構造を見出すための調査－傾聴調査－を行った。以下、傾聴調査の内容を代表的な5つの被災者の迷いにまとめて紹介する。復興の一助となれば幸いである。

2. 調査対象地点

調査対象は職住近接や地形、主な被害などを考慮して、宮城県女川町、亶理町、気仙沼市および福島県南相馬市の4地域を対象に実施した（表1）

表1 調査対象地点と回答者数

	気仙沼市	女川町	亶理町	南相馬市
回答者数	108人	111人	104人	119人

3. 傾聴調査に見る復興迷い

3.1 「住宅再建」をめぐる5つの迷い

- 迷い1：年齢の事もあるので、地元には戻らず復興公営住宅に入ろうと思うが、何時になったら建つのか分からないし、年金生活では家賃が払えるかも不安である。
- 迷い2：地元で自宅再建をしたいが、高齢でお金も借りられないし、後継ぎも都会に出てしまって、それに加えて復興計画も決まる気配がなく、現実的に再建という選択肢がない。
- 迷い3：自宅の再建はしたいが、資金がなく見通しが立たないので、その目途がつくまで再建計画の進めようがない。
- 迷い4：元の土地は規制されたので戻りたくても戻れないが、一方で復興計画も決まらず移転にも動けない。
- 迷い5：行政の方でインフラ整備をしてくれないと、戻るに戻れない。

住民は、できれば自宅を再建したい、できれば元の土地に戻りたいとは考えつつも、個人では対応が難しい幾つもの要因が重なり合って、自宅再建に対して明確な見通しを持たなくしている。

高齢者は、一方では災害復興公営住宅入居（迷い1）を、また一方では住宅再建（迷い2）を指向しているものの、収入の限定や後継ぎの不在、あるいは再建したとして後どれだけ健康に住んでいられるのか、という迷いのなかで消極的な選択をしつつある。

高齢者ではなくとも、「迷い3：資金難」や「迷い4：行政施策」に加えて、健康への不安、後継ぎの不在、津波や原発への不安、インフラの未整備(迷い5)によって、自己決定が大きく制約されていることが読みとれる。

3.2 「仕事・収入」をめぐる5つの迷い

- 迷い1：仕事や年金など収入源は変わっておらず、保険金が入ったりもしたので生活は安定しているが、将来的な不安や収入の少なさを感じてはいる。
- 迷い2：水道・光熱費の二重払い、医療費、食料費、生活用品の再購入など出費が多くなったが、収入も支援金も十分ではないので生活が苦しい。
- 迷い3：収入がだいぶ減って生活は苦しくなっているが、打開策もなく、先行きに不安を感じている。
- 迷い4：仕事をしたくても低賃金や短期雇用、土日出勤など、希望する条件に見合う募集がなく、不満やストレスがたまる。
- 迷い5：設備・道具の流出、風評被害、天候不順といった問題で仕事がうまくいかず、それを見て長く続けていた仕事を辞めたり、仕事の再開を躊躇している人も出ている。

仕事・収入の問題は、年齢との関連が強く、高齢者は年金生活で収入に変化はないものの、生活費がそもそも少ない点に不安を抱いている(迷い1)。自給していた米・野菜・魚などの食糧費、通院の交通費を含めた医療費などが震災後には増加しており(迷い2)、生産年齢にある被災者は、被災地の経済事情の悪化に伴う収入減(迷い3)や雇用の不安定化(迷い4)によって、生活の維持に困難を感じている。これはとくに迷い5に端的に示されており、漁業や農業といった第1次産業に従事していた人々にとって、津波による作業用の設備・道具の損失、放射能による土地や海の汚染という被害は、自力復旧の限界をこえたものであり、行政機関による支援を望む声がある一方、復旧困難として廃業や転職を指向する者も出てきている。

3.3 「復興感」をめぐる5つの迷い

- 迷い1：堤防の再建や原発問題の収束によって、生活上の安全が確保されると、落ち着いてくると思う。
- 迷い2：仮設住宅はありがたいが、あくまで仮の家なので、自宅・復興公営住宅・アパート、どんな形にせよ自分の住まいを持てたら、落ち着くと思う。
- 迷い3：地域産業が復興して、若い人の職場が出来てきたら、地域も自分も落ち着いてくると思う。
- 迷い4：地域から瓦礫が片付き、昔の町並みが戻り、子供や隣近所の声と生活の音も戻ってきて、そういう中で穏やかに過ごせたら落ち着いたと感じる。
- 迷い5：地域の人がみんな町に戻って、また、隣近所でお裾わけをしあったり、地元のお祭りやイベントをして、住民同士の絆が戻ってきたら、落ち着いたと感じる。

「復興感」の迷いを見ると、住宅再建や仕事・収入などの問題が深く関わっていることが分かる。

「安全・安心の確保」(迷い1)は、現地再建意向にせよ、移転意向にせよ、行政による堤防再建や除染の取り組みなしに地元へは戻れないと回答する被災者は、定量的調査と同様に多い。その前提のもとで、住宅再建(迷い2)や地域産業(迷い3)という生活再建が強く意識されている。仮設を出ることや地域産業の再生が、1つの目安として認識されているように、個々の収入だけではなく、より広く日々の生活、暮らしを取り戻したいという声が特徴的である。

このような元の暮らしに戻りたいという希望は、町並みや生活音などの外的環境(迷い4)やおすそわけ・雑談に代表される近隣関係(迷い5)に復興を感じるだろうと予想している。

また、復興感で特徴的であるのは、子供や若者についての発言が表れる点である。個人の復興を超えて、地域の存続が一般住民の視点からも重要視されていることがわかる。

4. まとめ

以上、「住宅再建」、「仕事・収入」ならびに「復興感」について、定量的調査のみでは捉えにくい被災者の迷っている姿、復興をどのように捉えているかという点を、迷いという形で示してきた。最後に、分析の結果から、復興には何が必要であるかをまとめる。

復興の制約条件はさまざまあるが、高齢、資金確保、行政施策への依存が繰り返し指摘されている。これらの制約は、個人での対応が困難な問題を含んでおり、そのため被災者は復興に対して何らかの意思決定を行おうとしても、自己決定権が限定され、自らの意思を十分に満たす選択が行えない状態に追い込まれている。その一方で、復興が進むにつれ、被災者は災害復興公営住宅への入居や集団移転への参加などをはじめとした様々な選択を否応なく求められる。これらの選択の中には、復興過程が進む中でやり直しの難しい選択も存在し、被災者に大きな後悔を残しかねない。このような事態を防ぐためには、行政機関は少なくとも、被災者に対する明確で具体的な選択肢を早期に提示すべきであろう。国は、その選択肢を可能とする柔軟な制度・事業を用意すべきであろう。そのことで、被災者がそれぞれの迷いの中で、少しでも選択を行うことへの納得できるような支援が可能となる。

I 調査の概要

1-1 調査目的

2011年3月11日の東日本大震災から1年以上が経過した。その間に様々な報道や政策を通じて、共通する目標として「復興」という言葉が、またその達成手段として「絆」という言葉が語られてきた。一方で、実際の復興過程には様々な利害関係・課題等の制約条件「絆」のメリット/デメリットとそれが被災地における「復興」とどのような関係にあるのか、また、被災地での生活を続ける彼らの意識は、被災地の変化の激しい状況に対してどのように移り変わるのか、その動的な現象を定点的に観測し、復興政策における留意点や補完的対策について明らかにしていく。

1-2 調査内容

<設問>

- ・現在の地域の雰囲気
- ・（傾聴）↑具体的な変化
- ・震災前と現在との周囲の人との付き合いの変化
- ・（傾聴）↑具体的な変化
- ・震災から1年後の心境
- ・最近感じること
- ・今後の居住場所を考える上で重視すること
- ・自宅再建上の問題
- ・（傾聴）↑具体的な問題
- ・震災前と現在との生活（家計）の変化
- ・震災前と現在との収入源・働き方の変化
- ・（傾聴）仕事・収入の状況への不満や問題
- ・（傾聴）復興の定義
（「落ち着いた」と思えるようになるポイント）
- ・（傾聴）復興支援として必要な施策
- ・津波防災対策として重要な施策
- ・（傾聴）↑他に大事だと思うこと
- ・（傾聴）そのほか

<対象者の属性>

- ・性別
- ・年齢
- ・震災前と現在の同居家族の人数（自身含む）
- ・震災前と現在の同居家族の続柄
- ・震災前の地域
- ・震災前の住居形態
- ・震災前の居住年数
- ・この度の地震や津波による住宅の被害
- ・今回の震災による住宅以外の被害

1-3 調査対象者

調査地区内の居住する 20 歳以上の男女個人（主に仮設住宅居住者）

1-4 標本数

別表「1-7 回収状況」参照

1-5 調査地点

別表「1-7 回収状況」参照

1-6 調査期間・調査手法・調査機関等

（1）調査期間

2012 年 4 月 21 日（土）～4 月 24 日（火）

※南相馬市のみ 2012 年 4 月 28（土）～5 月 1 日（火）

（2）調査手法

調査員による訪問面接調査

（3）調査機関

東京大学情報学環総合防災情報研究センター / 株式会社サーベイリサーチセンター

1-7 回収状況

市町	サンプル数 (件)	構成比 (%)
女川町	111	25.1
亘理町	104	23.5
気仙沼市	108	24.4
南相馬市	119	26.9
計	442	100.0

1-8 標本構成

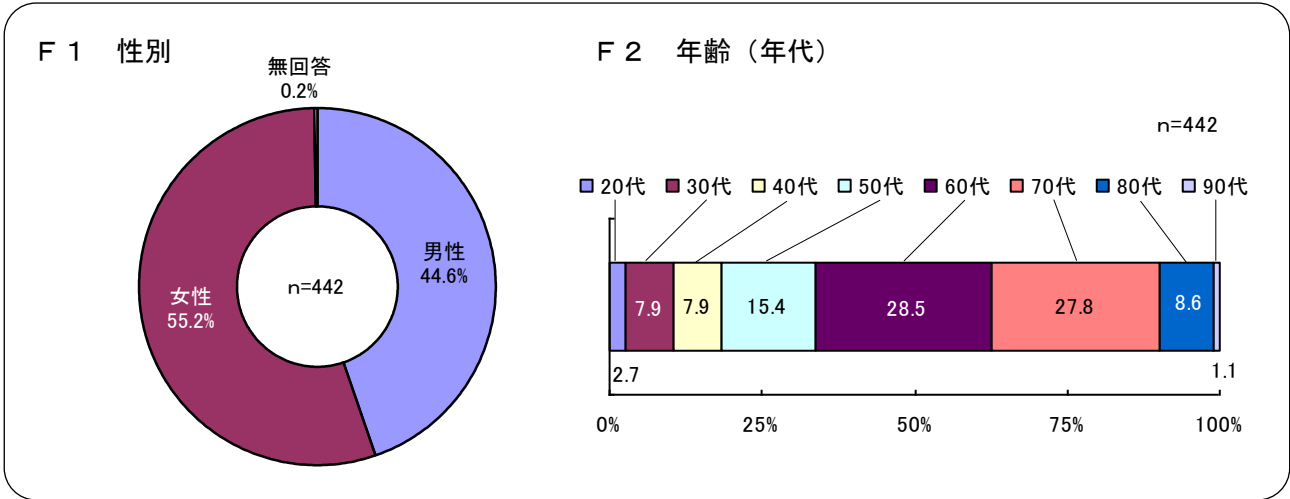
n		F1 性別			F2 年齢(年代)								
		男性	女性	無回答	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	
全体	442	197	244	1	12	35	35	68	126	123	38	5	
		44.6	55.2	0.2	2.7	7.9	7.9	15.4	28.5	27.8	8.6	1.1	
調査地点	女川町	111	45	66	-	5	4	8	17	39	28	9	1
		40.5	59.5	-	4.5	3.6	7.2	15.3	35.1	25.2	8.1	0.9	
	亘理町	104	48	56	-	3	5	9	20	28	28	11	-
		46.2	53.8	-	2.9	4.8	8.7	19.2	26.9	26.9	10.6	-	
	気仙沼市	108	43	64	1	3	16	12	12	24	30	8	3
		39.8	59.3	0.9	2.8	14.8	11.1	11.1	22.2	27.8	7.4	2.8	
	南相馬市	119	61	58	-	1	10	6	19	35	37	10	1
		51.3	48.7	-	0.8	8.4	5.0	16.0	29.4	31.1	8.4	0.8	

上段/件数 (単位: 件)

下段/構成比 (単位: %)

II 調査結果

2-1 対象者の属性

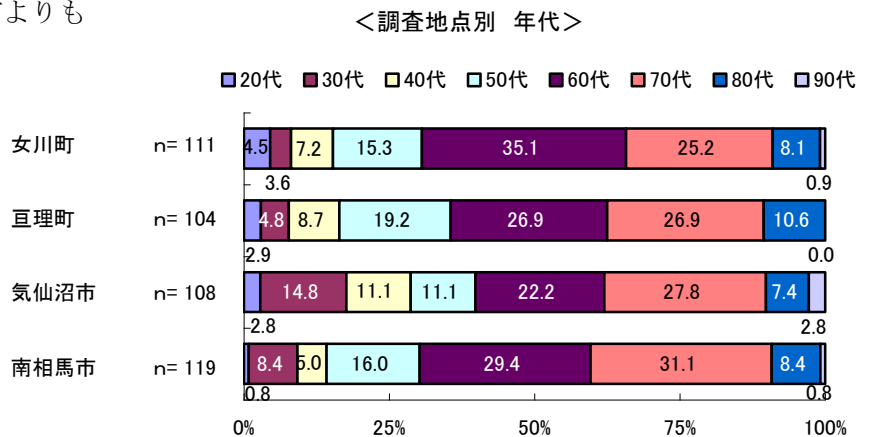
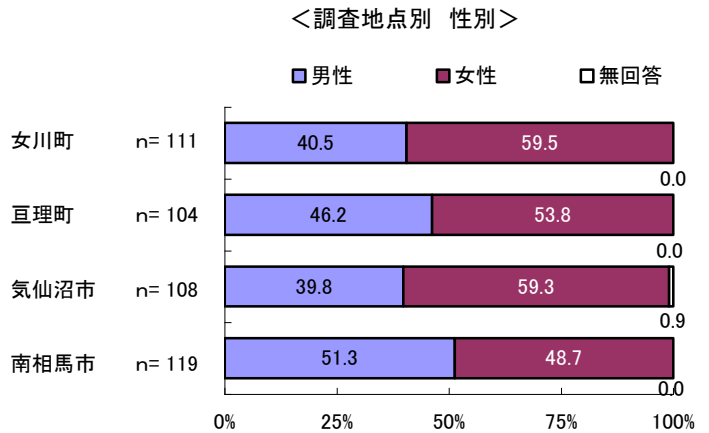


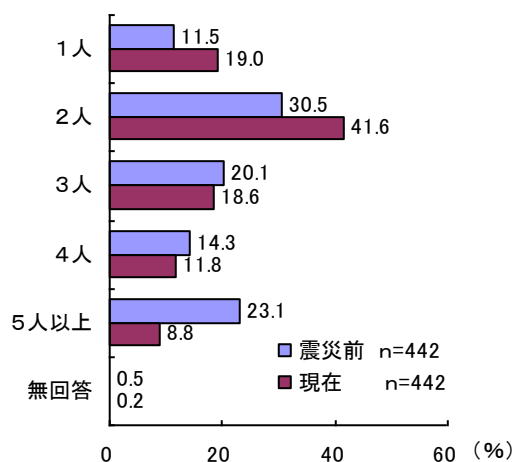
対象者の性別は、「男性」(44.6%)よりも「女性」(55.2%)が多くなっている。

年齢(年代)は、「60代」(28.5%)と「70代」(27.8%)が同程度で多く、以降、「50代」(15.4%)、「80代」(8.6%)、「30代」「40代」(各7.9%)と続いている。

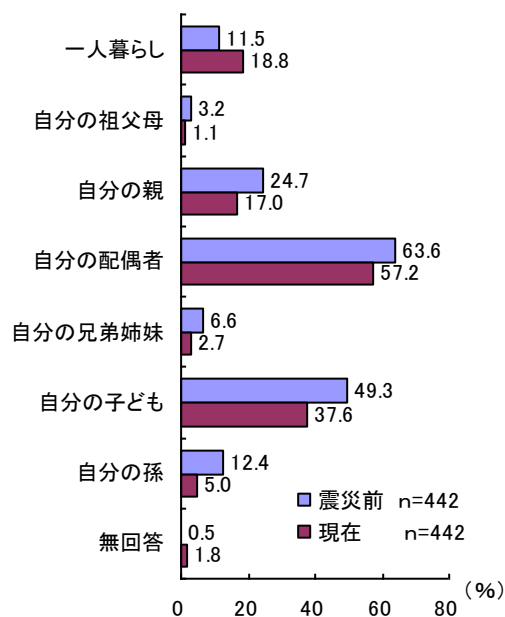
性別を調査地点別にみると、気仙沼市では「女性」(59.3%)が6割を占めている。一方、南相馬市では4市町中で唯一「男性」(51.3%)が「女性」(48.7%)を上回っている。

年齢(年代)を調査地点別にみると、女川町で「60代」(35.1%)、気仙沼市で「30代」(14.8%)が、それぞれ他の市町よりも多くなっている。



F 3 震災前と現在の同居家族の人数
(自身含む)

F 4 震災前と現在の同居家族の続柄



自身を含む同居家族の人数は、震災前は「2人」(30.5%)が最も多く3割を占め、以降、「5人以上」(23.1%)、「3人」(20.1%)の順となっている。

現在は、「2人」(41.6%)が最も多く4割以上を占め、以降、「1人」(19.0%)、「3人」(18.6%)の順となっている。

震災前→現在で増加しているのは「2人」(+11P)と「1人」(+8P)。一方、減少しているのは「5人以上」(-14P)、「4人」(-3P)、「3人」(-2P)。

※P：ポイント。

同居家族の続柄は、震災前は「自分の配偶者」(63.6%)が最も多く、以降、「自分の子ども」(49.3%)、「自分の親」(24.7%)、「自分の孫」(12.4%)、「一人暮らし」(11.5%)の順となっている。

現在は、「自分の配偶者」(57.2%)が最も多く、以降、「自分の子ども」(37.6%)、「一人暮らし」(18.8%)、「自分の親」(17.0%)の順となっている。

震災前→現在で増加しているのは「一人暮らし」(+7P)のみで、それ以外の項目は全て減少している(「自分の子ども」(-12P)、「自分の親」(-8P)、「自分の孫」(-7P)、「自分の配偶者」(-6P)、「自分の兄弟姉妹」(-4P)、「自分の祖父母」(-2P))。

調査地点別の震災前・現在の同居家族の人数とその増減は下表のとおり。

主な増減についてみると、女川町では「1人」(+11P)と「2人」(+5P)が増加し、「3人」「5人以上」(各-8P)が減少している。

亘理町では「2人」(+18P)と「1人」(+5P)が増加し、「5人以上」(-17P)と「4人」(-6P)が減少している。

気仙沼市では「2人」(+10P)と「1人」(+7P)が増加し、「5人以上」(-12P)と「3人」(-6P)が減少している。

南相馬市では「2人」(+11P)と「1人」(+8P)と「3人」(+7P)が増加し、「5人以上」(-19P)と「4人」(-6P)が減少している。

<調査地点別 震災前・現在の同居家族の人数とその増減>

属性		n	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	
(震災前)		全体	442	11.5	30.5	20.1	14.3	23.1	0.5
調査地点	女川町	111	13.5	32.4	22.5	9.9	19.8	1.8	
	亘理町	104	15.4	26.0	17.3	16.3	25.0	0.0	
	気仙沼市	108	12.0	31.5	23.1	13.0	20.4	0.0	
	南相馬市	119	5.9	31.9	17.6	17.6	26.9	0.0	
(単位:%)									
(現在)		全体	442	19.0	41.6	18.6	11.8	8.8	0.2
調査地点	女川町	111	24.3	37.8	14.4	10.8	11.7	0.9	
	亘理町	104	20.2	44.2	17.3	10.6	7.7	0.0	
	気仙沼市	108	18.5	41.7	17.6	13.9	8.3	0.0	
	南相馬市	119	13.4	42.9	24.4	11.8	7.6	0.0	
(単位:%)									
(震災前→現在の増減)		全体	8	11	▲2	▲3	▲14	▲0	
調査地点	女川町	11	5	▲8	1	▲8	▲1		
	亘理町	5	18	0	▲6	▲17	0		
	気仙沼市	7	10	▲6	1	▲12	0		
	南相馬市	8	11	7	▲6	▲19	0		
(単位:ポイント)									

※(震災前)と(現在)の同居家族の人数の表では、構成比が全体平均より5ポイント以上多いものに **網掛け** している。

調査地点別の震災前・現在の同居家族の続柄とその増減は下表のとおり。

主な増減についてみると、女川町では「一人暮らし」(+11P)が増加し、「自分の親」「自分の配偶者」(各-8P)と「自分の子ども」(-6P)が減少している。

亘理町では「一人暮らし」(+5P)が増加し、「自分の子ども」(-14P)、「自分の親」(-8P)、「自分の配偶者」(-6P)、「自分の孫」(-7P)が減少している。

気仙沼市では「一人暮らし」(+6P)が増加し、「自分の親」(-11P)、「自分の子ども」(-9P)、「自分の孫」(-7P)、「自分の兄弟姉妹」(-6P)が減少している。

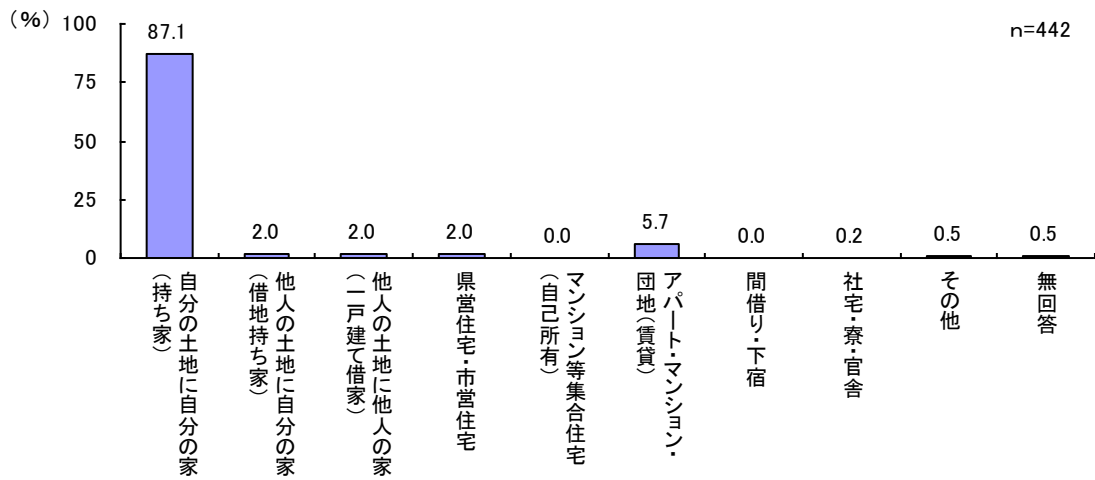
南相馬市では「一人暮らし」(+8P)が増加し、「自分の子ども」(-17P)、「自分の孫」(-14P)、「自分の配偶者」(-8P)が減少している。

<調査地点別 震災前・現在の同居家族の続柄とその増減>

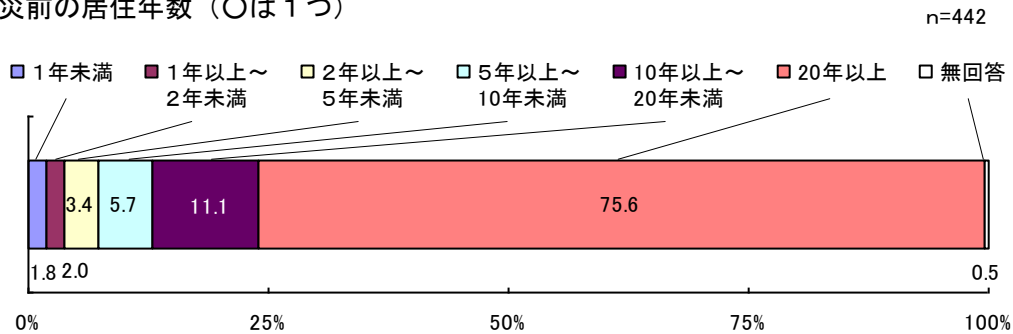
		属性	n	一人暮らし	自分の祖父母	自分の親	自分の配偶者	自分の兄弟姉妹	自分の子ども	自分の孫	無回答
(震災前)	全体	442	11.5	3.2	24.7	63.6	6.6	49.3	12.4	0.5	
	調査地点	女川町	111	13.5	7.2	21.6	65.8	8.1	42.3	5.4	1.8
		亘理町	104	15.4	1.0	20.2	63.5	3.8	50.0	13.5	0.0
		気仙沼市	108	12.0	2.8	23.1	58.3	6.5	51.9	9.3	0.0
		南相馬市	119	5.9	1.7	32.8	66.4	7.6	52.9	21.0	0.0
(単位:%)											
(現在)	全体	442	18.8	1.1	17.0	57.2	2.7	37.6	5.0	1.8	
	調査地点	女川町	111	24.3	4.5	13.5	57.7	4.5	36.0	3.6	1.8
		亘理町	104	20.2	0.0	12.5	57.7	1.0	35.6	6.7	0.0
		気仙沼市	108	17.6	0.0	12.0	54.6	0.9	42.6	2.8	4.6
		南相馬市	119	13.4	0.0	28.6	58.8	4.2	36.1	6.7	0.8
(単位:%)											
(震災前→現在の増減)	全体	7	▲2	▲8	▲6	▲4	▲12	▲7	1		
	調査地点	女川町	11	▲3	▲8	▲8	▲4	▲6	▲2	0	
		亘理町	5	▲1	▲8	▲6	▲3	▲14	▲7	0	
		気仙沼市	6	▲3	▲11	▲4	▲6	▲9	▲7	5	
		南相馬市	8	▲2	▲4	▲8	▲3	▲17	▲14	1	
(単位:ポイント)											

※(震災前)と(現在)の同居家族の続柄の表では、構成比が全体平均より5ポイント以上多いものに網掛けしている。

F 6 震災前の住居形態 (〇は1つ)



F 7 震災前の居住年数 (〇は1つ)



震災前の住居形態は、「自分の土地に自分の家 (持ち家)」(87.1%) が最も多く、大半を占めている。以降、「アパート・マンション・団地 (賃貸)」(5.7%)、「他人の土地に自分の家 (借地持ち家)」 「他人の土地に他人の家 (一戸建て借家)」 「県営住宅・市営住宅」(各 2.0%) と続いている。

震災前の居住年数は、「20年以上」(75.6%) が最も多く、4分の3を占めている。以降、「10年以上～20年未満」(11.1%)、「5年以上～10年未満」(5.7%) と続いている。

震災前の住居形態を調査地点別にみると、いずれの市町でも「自分の土地に自分の家（持ち家）」が大半を占めていることに変わりはないが、特に亘理町、南相馬市（各 93.3%）では9割以上となっている。また、「アパート・マンション・団地（賃貸）」は気仙沼市（15.7%）で突出している。

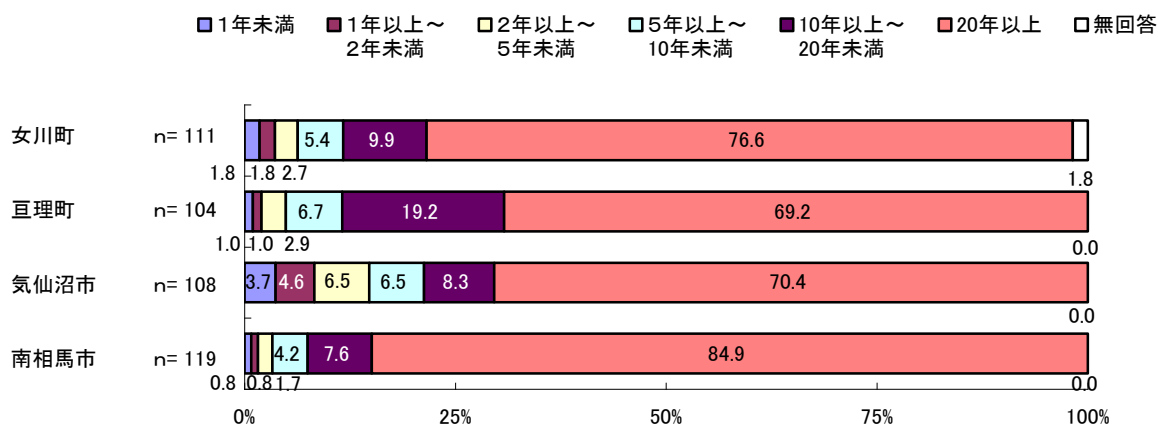
<調査地点別 震災前の住居形態>

属性		n	自分の土地に自分の家（持ち家）	他人の土地に自分の家（借地持ち家）	他人の土地に他人の家（一戸建て借家）	県営住宅・市営住宅	マンション等集合住宅（自己所有）	アパート・マンション・団地（賃貸）	間借り・下宿	社宅・寮・官舎	その他	無回答
全体		442	87.1	2.0	2.0	2.0	-	5.7	-	0.2	0.5	0.5
調査地点	女川町	111	83.8	0.9	2.7	5.4	-	5.4	-	-	-	1.8
	亘理町	104	93.3	1.9	1.0	1.9	-	1.0	-	-	1.0	-
	気仙沼市	108	77.8	3.7	1.9	-	-	15.7	-	0.9	-	-
	南相馬市	119	93.3	1.7	2.5	0.8	-	0.8	-	-	0.8	-

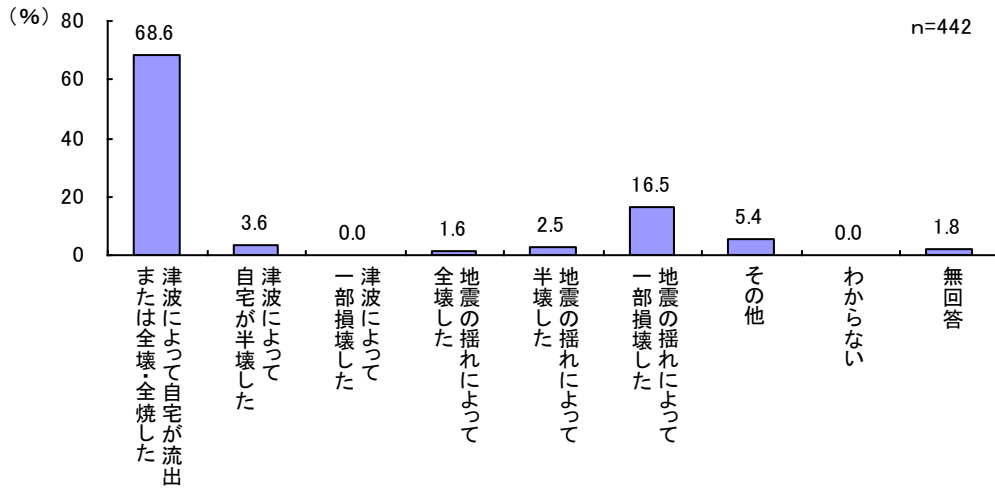
※構成比の単位は%、構成比が全体平均より5ポイント以上多いものに **網掛け**。以下の分析でも同じ。

震災前の居住年数を調査地点別にみると、いずれの市町でも「20年以上」が大半を占めていることに変わりはないが、特に南相馬市（84.9%）では突出している。一方、気仙沼市では「1年未満」（3.7%）、「1年以上～2年未満」（4.6%）、「2年以上～5年未満」（6.5%）のいずれも4市町中で最も多く、それらを合わせた『居住年数5年未満』（14.8%）が突出している。

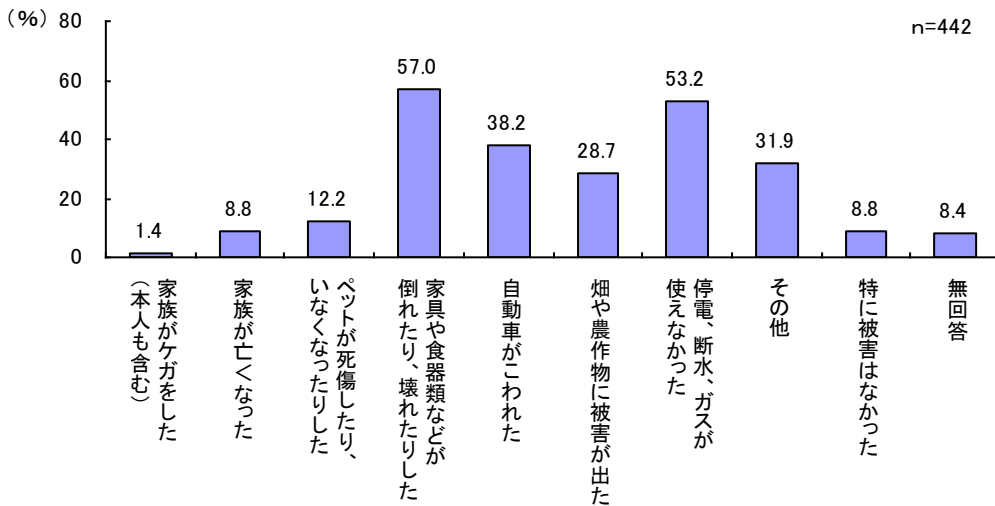
<調査地点別 震災前の居住年数>



F 8 この度の地震や津波による住宅の被害 (〇は1つ)



F 9 今回の震災による住宅以外の被害 (いくつでも〇)



この度の地震や津波による住宅の被害は、「津波によって自宅が流出または全壊・全焼した」(68.6%)が最も多く、3分の2を占めている。以降、「地震の揺れによって一部損壊した」(16.5%)、「津波によって自宅が半壊した」(3.6%)、「地震の揺れによって半壊した」(2.5%)と続いている。

今回の震災による住宅以外の被害は、「家具や食器類などが倒れたり、壊れたりした」(57.0%)が最も多く、以降、「停電、断水、ガスが使えなかった」(53.2%)、「自動車がこわれた」(38.2%)、「畑や農作物に被害が出た」(28.7%)と続いている。

この度の地震や津波による住宅の被害を調査地点別にみると、女川町・亶理町・気仙沼市では「津波によって自宅が流出または全壊・全焼した」が大多数を占めている（女川町：92.8%、亶理町：86.5%、気仙沼市：97.2%）。特に気仙沼市では「津波によって自宅が流出または全壊・全焼した」と「津波によって自宅が半壊した」以外の回答は皆無であった。一方、南相馬市では「地震の揺れによって一部損壊した」（61.3%）が最も多く、「地震の揺れによって半壊した」（8.4%）が続いている。

<調査地点別 この度の地震や津波による住宅の被害>

属性		n	津波は流出	津波が流出	津波による	地震の揺れ	地震の揺れ	地震の揺れ	その他	わからない	無回答
			または全壊・全焼した	した	一部損壊した	した	した	した	した		
全体		442	68.6	3.6	-	1.6	2.5	16.5	5.4	-	1.8
調査地点	女川町	111	92.8	3.6	-	2.7	-	-	-	-	0.9
	亶理町	104	86.5	7.7	-	1.9	1.0	-	2.9	-	-
	気仙沼市	108	97.2	2.8	-	-	-	-	-	-	-
	南相馬市	119	4.2	0.8	-	1.7	8.4	61.3	17.6	-	5.9

今回の震災による住宅以外の被害を調査地点別にみると、女川町では「家具や食器類などが倒れたり、壊れたりした」（77.5%）が最も多く、以降、「停電、断水、ガスが使えなかった」（70.3%）、「自動車がこわれた」（54.1%）と続いている。

亶理町では、「停電、断水、ガスが使えなかった」（77.9%）が最も多く、「家具や食器類などが倒れたり、壊れたりした」（70.2%）、「自動車がこわれた」（59.6%）、「畑や農作物に被害が出た」（41.3%）と続いている。

気仙沼市では「自動車がこわれた」（37.0%）が最も多く、以降、「停電、断水、ガスが使えなかった」（24.1%）、「畑や農作物に被害が出た」（13.9%）と続いている。

南相馬市では「家具や食器類などが倒れたり、壊れたりした」（68.1%）が最も多く、以降、「停電、断水、ガスが使えなかった」（42.0%）、「畑や農作物に被害が出た」（22.7%）と続いている。

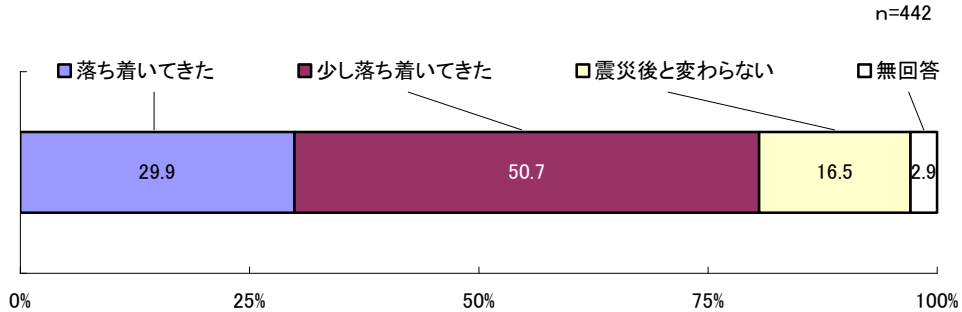
全体的に女川町と亶理町では多くの項目に回答があった。一方、気仙沼市と南相馬市では各項目への回答が比較的少なく、「特に被害はなかった」が多くなっている（気仙沼市：15.7%、南相馬市：15.1%）。

<調査地点別 今回の震災による住宅以外の被害>

属性		n	家族がケガをした	家族が亡くなった	ペットが死傷したり、いなくなったりした	倒れたり、壊れたりした家具や食器類など	自動車がこわれた	畑や農作物に被害が出た	停電、断水、ガスが使えなかった	その他	特に被害はなかった	無回答
			全体		442	1.4	8.8	12.2	57.0	38.2	28.7	53.2
調査地点	女川町	111	3.6	14.4	13.5	77.5	54.1	37.8	70.3	42.3	-	2.7
	亶理町	104	1.9	8.7	18.3	70.2	59.6	41.3	77.9	30.8	3.8	3.8
	気仙沼市	108	-	7.4	8.3	11.1	37.0	13.9	24.1	27.8	15.7	26.9
	南相馬市	119	-	5.0	9.2	68.1	5.9	22.7	42.0	26.9	15.1	0.8

2-2 現在の地域の雰囲気

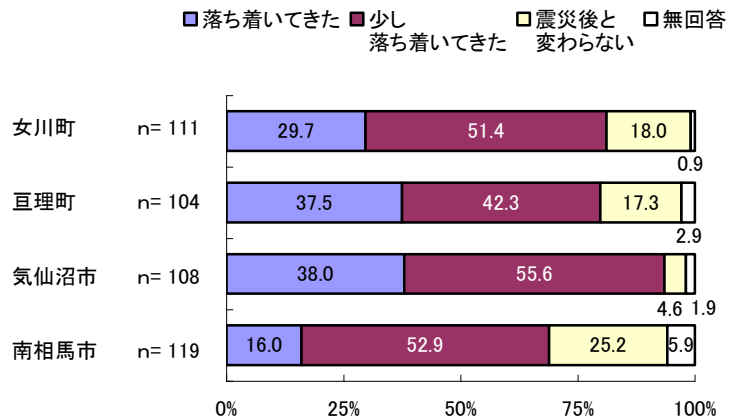
[問1] いま、地域の雰囲気はどのような状況ですか。



現在の地域の雰囲気は、「少し落ち着いた」(50.7%) が最も多く約半数を占め、「落ち着いた」(29.9%)、「震災後と変わらない」(16.5%) と続く。

調査地点別にみると、気仙沼市では「落ち着いた」(38.0%) と「少し落ち着いた」(55.6%) 共に4市町中で最も多くなっている。一方、南相馬市では「震災後と変わらない」(25.2%) が4分の1を占め、「落ち着いた」(16.0%) は4市町中で最も少なくなっている。

<調査地点別 地域の雰囲気>

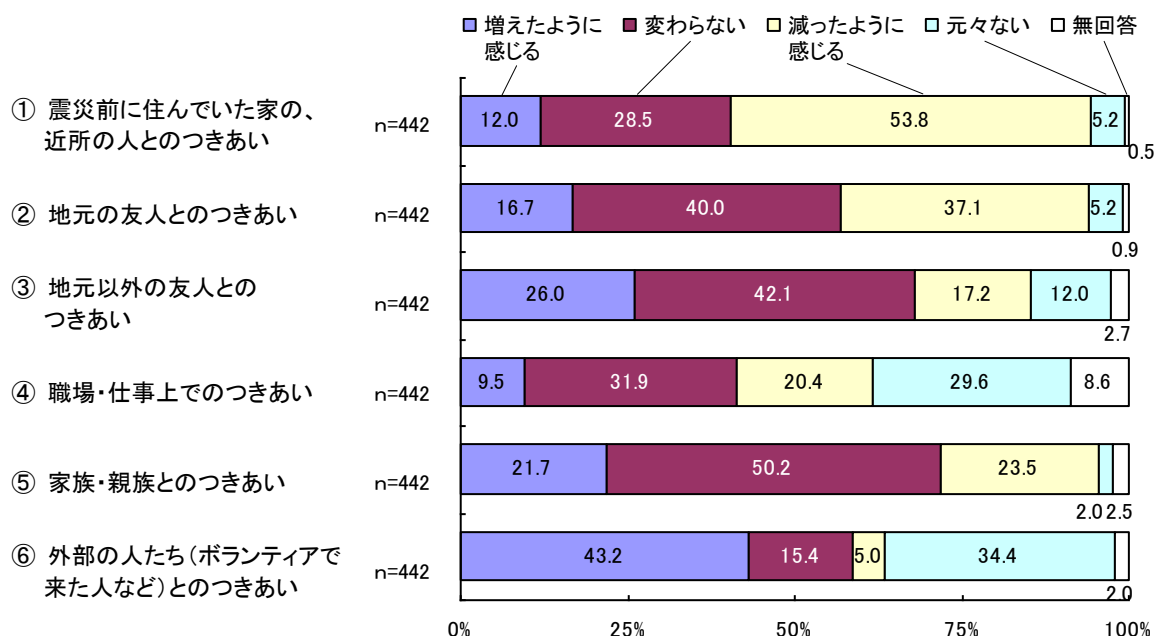


[傾聴1] いつごろから、どのようなことが変わってきたと思いますか。

※Ⅲ. 「3-1. [傾聴1] いつごろから、どのようなことが変わってきたと思いますか」に記載

2-3 周囲の人との付き合いの変化

〔問2〕震災前と現在とでは、まわりの人とのつきあいに変化がありましたでしょうか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つずつお選びください。



震災前と現在とで、周囲との付き合いの変化を訊ねた。

①～⑥の各項目のうち、周囲との付き合いで「増えたように感じる」が多かったのは、⑥ 外部の人たち（ボランティアで来た人など）とのつきあい（43.2%）で4割以上を占め、以降、③ 地元以外の友人とのつきあい（26.0%）、⑤ 家族・親族とのつきあい（21.7%）と続いている。

「変わらない」が多かったのは、⑤ 家族・親族とのつきあい（50.2%）で半数を占め、以降、③ 地元以外の友人とのつきあい（42.1%）、② 地元の友人とのつきあい（40.0%）と続いている。

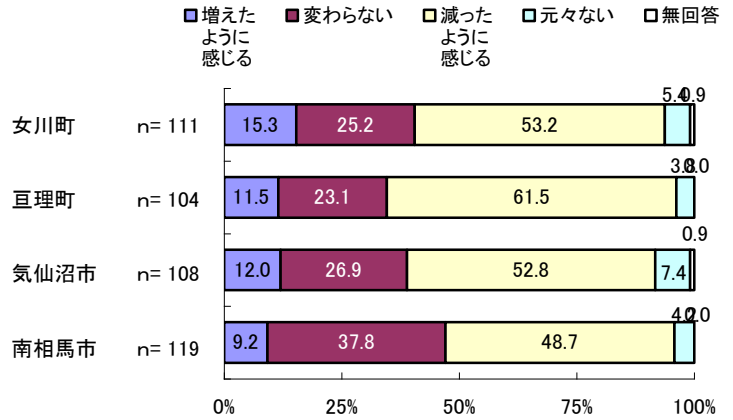
「減ったように感じる」が多かったのは、① 震災前に住んでいた家の、近所の人とのつきあい（53.8%）で半数以上を占め、② 地元の友人とのつきあい（37.1%）、⑤ 家族・親族とのつきあい（23.5%）がそれに続く。

「元々ない」が多かったのは、⑥ 外部の人たち（ボランティアで来た人など）とのつきあい（34.4%）で3分の1を占め、④ 職場・仕事上でのつきあい（29.6%）がそれに続く。

①～⑥の各項目について、調査地点別にみている。

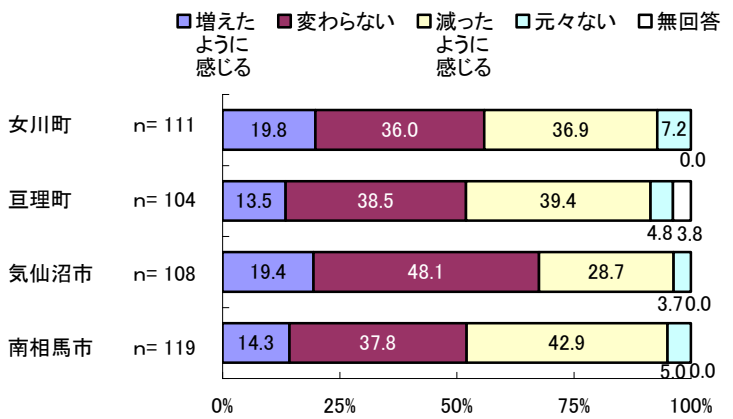
① 震災前に住んでいた家の、近所の人とのつきあいについて、「増えたように感じる」は女川町（15.3%）が4市町中で最も多くなっている。一方、「減ったように感じる」は亶理町（61.5%）が4市町中で最も多く、3分の2を占めている。また、「変わらない」は南相馬市（37.8%）で3分の1以上を占めている。

<調査地点別 ①震災前に住んでいた家の、近所の人とのつきあい>



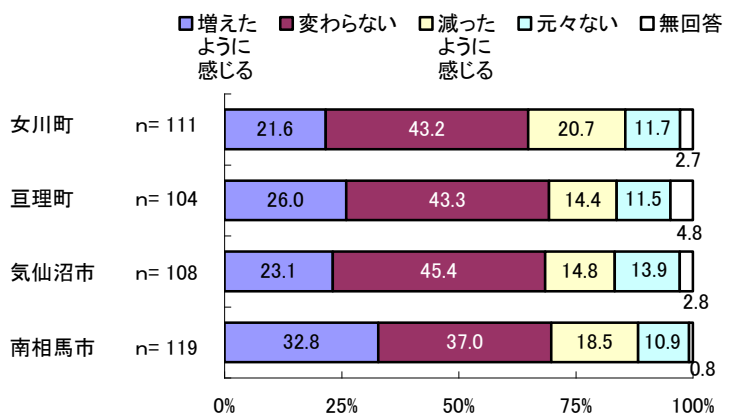
② 地元の友人とのつきあいについて、「増えたように感じる」は女川町（19.8%）が4市町中で最も多くなっている。一方、「減ったように感じる」は南相馬市（42.9%）と亶理町（39.4%）で4割以上を占めている。また、「変わらない」は気仙沼市（48.1%）で半数弱を占めている。

<調査地点別 ②地元の友人とのつきあい>



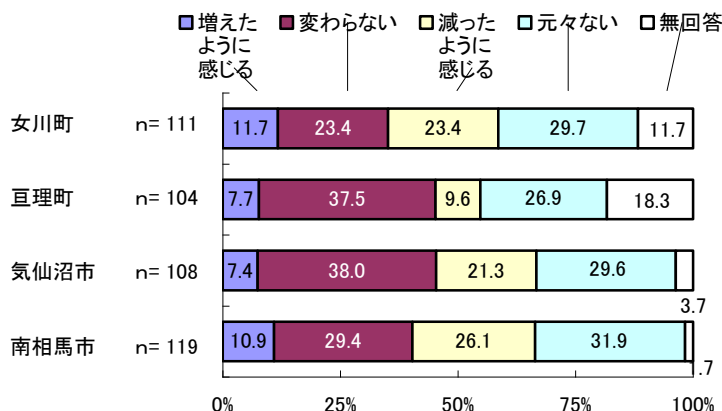
③ 地元以外の友人とのつきあいについて、「増えたように感じる」は南相馬市（32.8%）が4市町中で最も多く、3分の1を占めている。

<調査地点別 ③地元以外の友人とのつきあい>



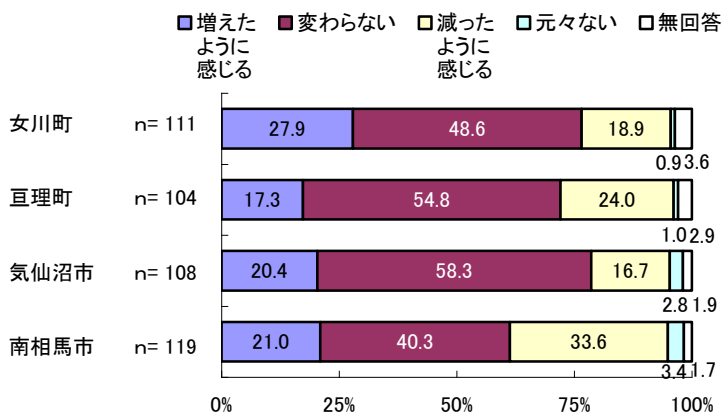
④ 職場・仕事上でのつきあいについて、「減ったように感じる」は南相馬市(26.1%)が4市町中で最も多く、4分の1を占めている。また、「変わらない」は気仙沼市(38.0%)で4割弱を占めている。

<調査地点別 ④職場・仕事上でのつきあい>



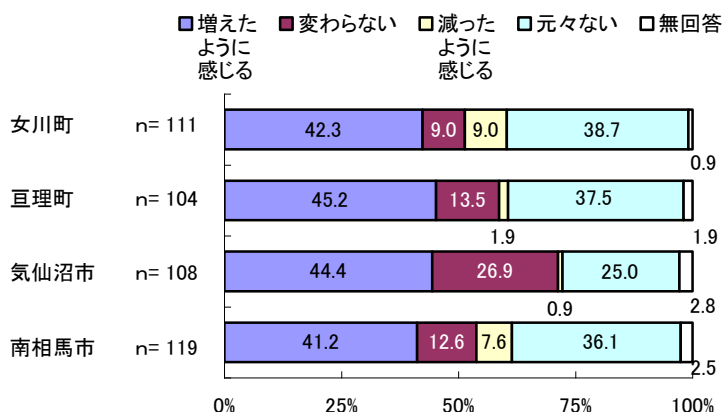
⑤ 家族・親族とのつきあいについて、「増えたように感じる」は女川町(27.9%)が4市町中で最も多く、約3割を占めている。一方、「減ったように感じる」は南相馬市(33.6%)が4市町中で最も多く、3分の1を占めている。また、「変わらない」は気仙沼市(58.3%)で6割弱を占めている。

<調査地点別 ⑤家族・親族とのつきあい>



⑥ 外部の人たち(ボランティアで来た人など)とのつきあいについて、気仙沼市では「変わらない」(26.9%)が突出している。

<調査地点別 ⑥外部の人たち(ボランティアで来た人など)とのつきあい>

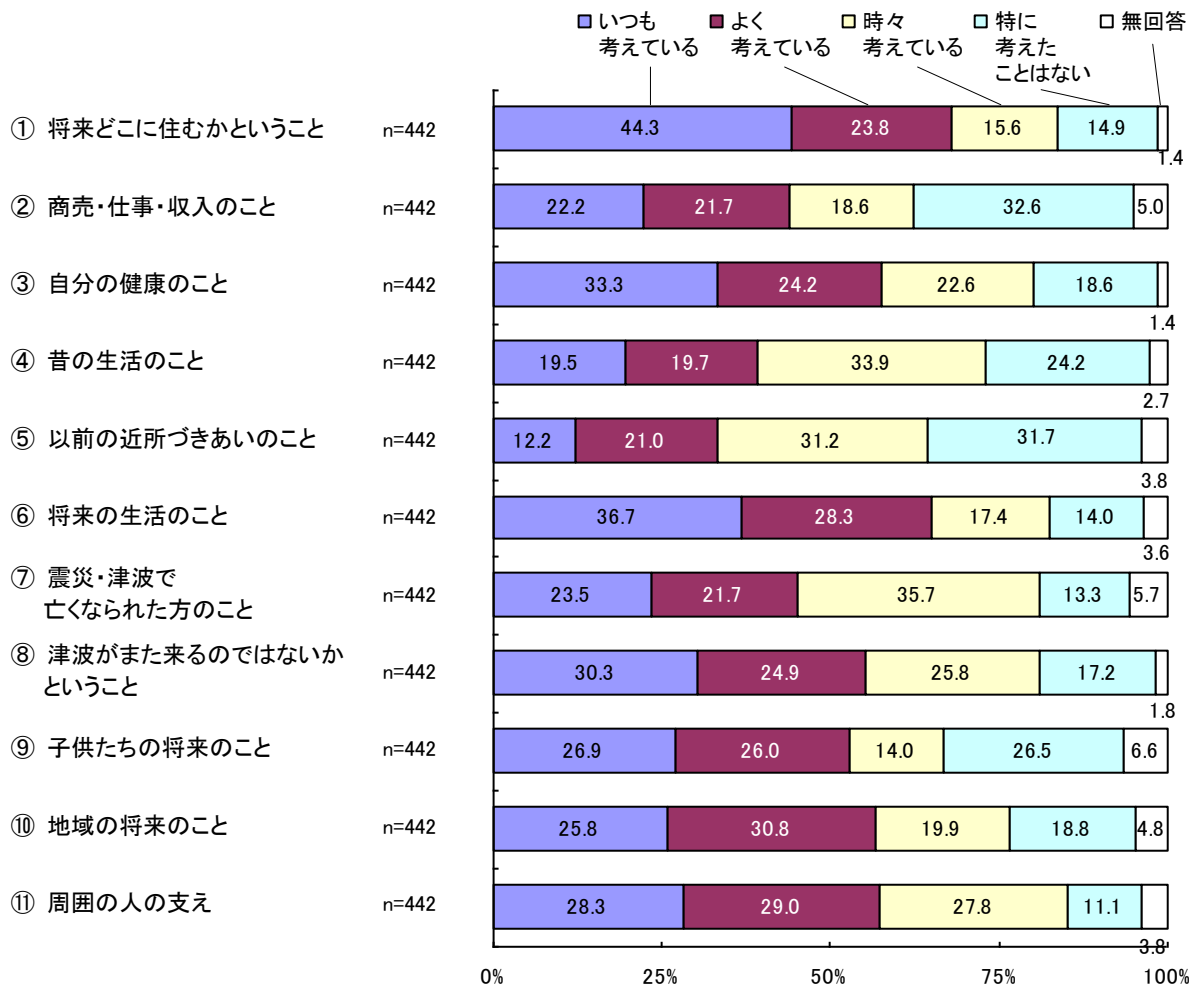


[傾聴2] ○○(上記項目で変化があったこと)について具体的に、どのようなことですか。

※Ⅲ.「3-2. [傾聴2] ○○(上記項目で変化があったこと)について具体的に、どのようなことですか」に記載

2-4 震災から1年後の心境

[問3] 震災から1年たった現在、どのようなことをお考えますか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つずつお選びください。



震災から1年経った現在の心境を訊ねた。

「いつも考えている」は、① 将来どこに住むかということ（44.3%）で4割以上を占め、⑥ 将来の生活のこと（36.7%）、③ 自分の健康のこと（33.3%）、⑧ 津波がまた来るのではないかとということ（30.3%）でも3割を超えている。

「よく考えている」は、⑩ 地域の将来のこと（30.8%）、⑪ 周囲の人の支え（29.0%）、⑥ 将来の生活のこと（28.3%）で約3割を占めている。

「いつも考えている」と「よく考えている」を合わせた『考えている』は、① 将来どこに住むかということ（68.1%）、⑥ 将来の生活のこと（65.0%）で約3分の2を占め、以降、③ 自分の健康のこと（57.5%）、⑪ 周囲の人の支え（57.3%）、⑩ 地域の将来のこと（56.6%）、⑧ 津波がまた来るのではないかとということ（55.2%）、⑨ 子供たちの将来のこと（52.9%）でも半数以上を占めている。

「時々考えている」は、⑦ 震災・津波で亡くなられた方のこと (35.7%)、④ 昔の生活のこと (33.9%)、⑤ 以前の近所づきあいのこと (31.2%) で3割を超えている。

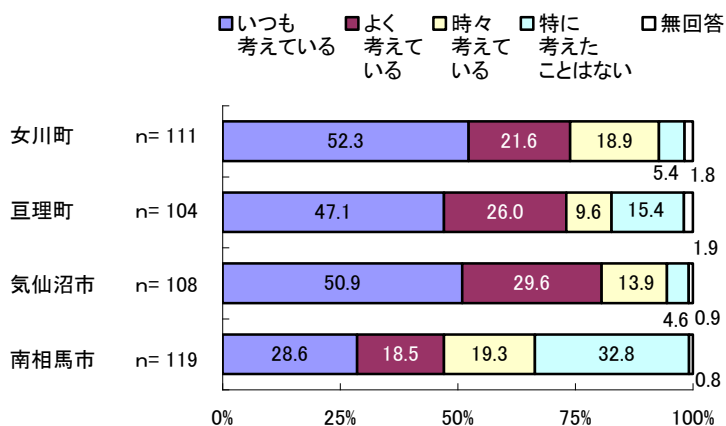
また、「特に考えたことはない」は、② 商売・仕事・収入のこと (32.6%)、⑤ 以前の近所づきあいのこと (31.7%) で3割以上を占めている。

①～⑩の各項目について、調査地点別にみている。

① 将来どこに住むかということについて

「いつも考えている」は女川町 (52.3%) と気仙沼市 (50.9%) では半数以上を占めている。一方、「特に考えたことはない」は南相馬市 (32.8%) が4市町中で最も多く、3分の1を占めている。また、南相馬市では「いつも考えている」(28.6%) は3割に満たない。

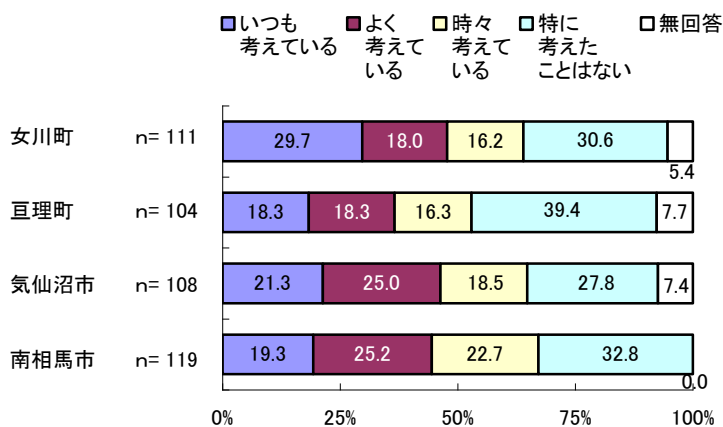
<調査地点別 ①将来どこに住むかということ>



② 商売・仕事・収入のことについて

「いつも考えている」は女川町 (29.7%) が4市町中で最も多くなっている。一方、「特に考えたことはない」は亶理町 (39.4%) が4市町中で最も多く、4割を占めている。

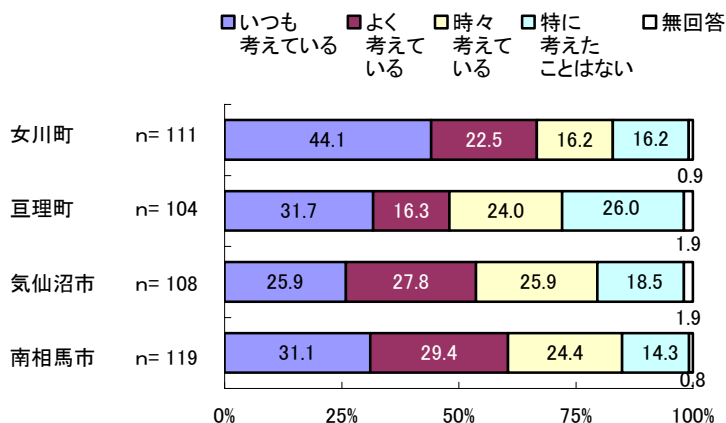
<調査地点別 ②商売・仕事・収入のこと>



③ 自分の健康のことについて

「いつも考えている」は女川町 (44.1%) が4市町中で最も多く、半数弱を占めている。一方、「特に考えたことはない」は亶理町 (26.0%) が4市町中で最も多くなっている。

<調査地点別 ③自分の健康のこと>



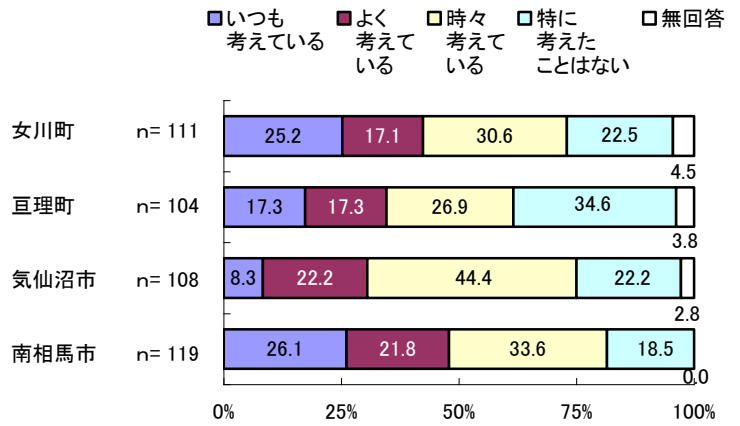
④ 昔の生活のことについて、「いつも考えている」は南相馬市（26.1%）と女川町（25.2%）で多く、4分の1を占めている。一方、「特に考えたことはない」は亙理町（34.6%）が4市町中で最も多く、3割を占めている。

⑤ 以前の近所づきあいのことについて、「いつも考えている」は女川町・亙理町・南相馬市で約13%程度であり、気仙沼市（8.3%）のみが4市町中でやや少ない。また、「よく考えている」は南相馬市（29.4%）で突出しており、「いつも考えている」と「よく考えている」を合わせた『考えている』は、南相馬市（42.8%）では4割以上となっている。

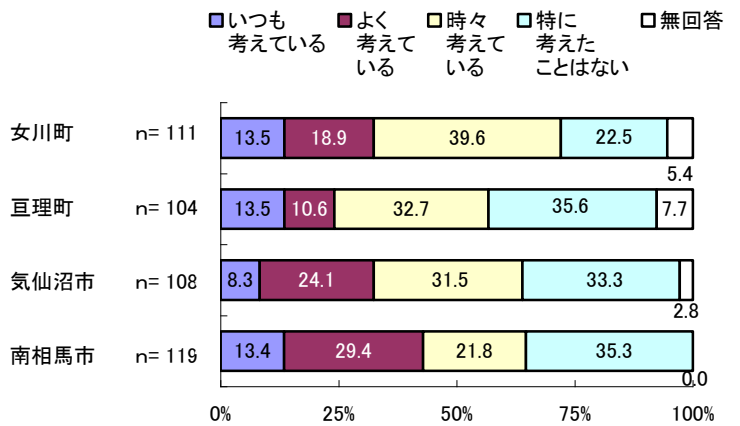
⑥ 将来の生活のことについて、「いつも考えている」は女川町（43.2%）が4市町中で最も多くなっている。一方、「特に考えたことはない」は亙理町（22.1%）が4市町中で最も多く、2割以上を占めている。

⑦ 震災・津波で亡くなられた方のことについて、「いつも考えている」は女川町（33.3%）が4市町中で最も多くなっている。女川町では「よく考えている」（26.1%）も突出しており、両方を合わせた『考えている』（59.4%）は約6割を占めている。

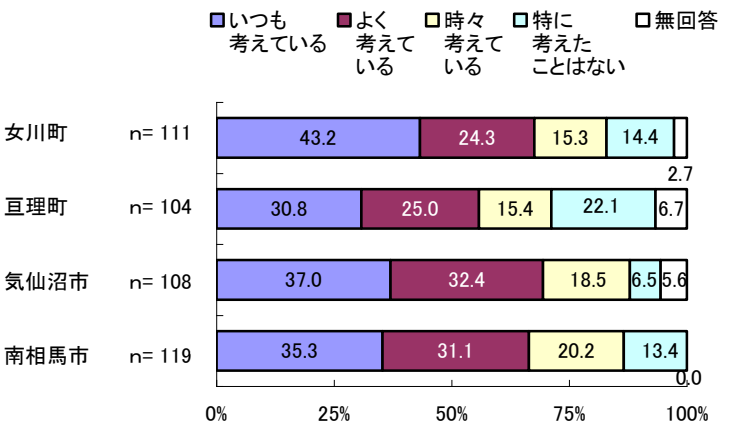
<調査地点別 ④昔の生活のこと>



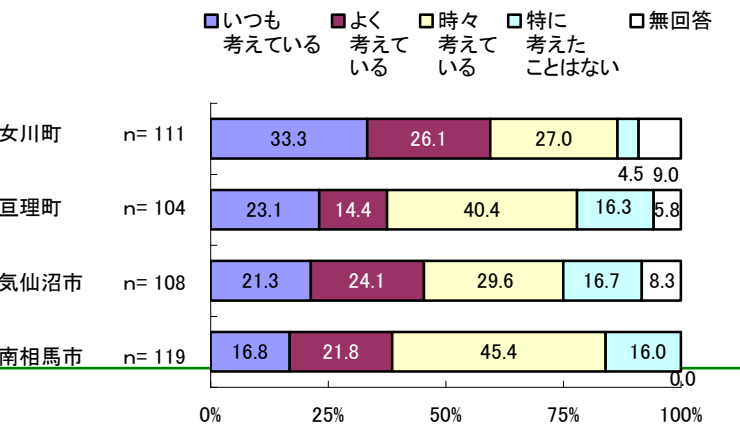
<調査地点別 ⑤以前の近所づきあいのこと>



<調査地点別 ⑥将来の生活のこと>



<調査地点別 ⑦震災・津波で亡くなられた方のこと>



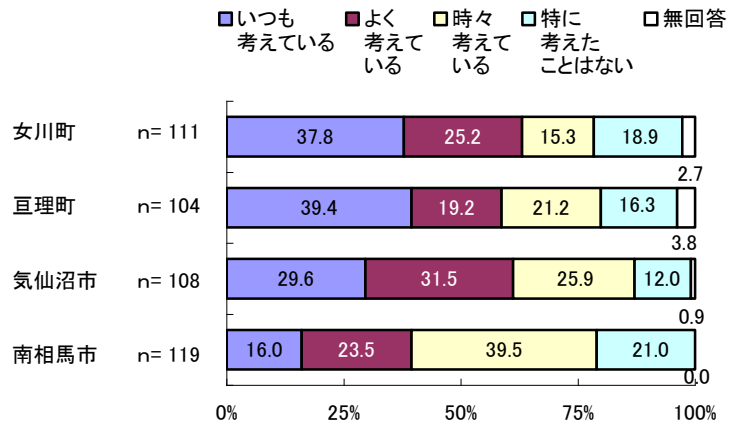
⑧ 津波がまた来るのではないかと
 ことについて、「いつも考えている」は亙理町 (39.4%) と女川町 (37.8%) で多く、4割弱を占めている。「いつも考えている」と「よく考えている」を合わせた『考えている』は、南相馬市 (39.5%) 以外の3市町ではほぼ同じとなっている (女川町: 63.0%、亙理町: 58.6%、気仙沼市: 61.1%)。

⑨ 子供たちの将来のことについて、「いつも考えている」は南相馬市 (36.1%) が4市町中で最も多くなっている。南相馬市では「よく考えている」(28.6%) も多く、両方を合わせた『考えている』(64.7%) は約3分の2を占めている。一方、「特に考えたことはない」は女川町 (33.3%) が4市町中で最も多く、3分の1を占めている。

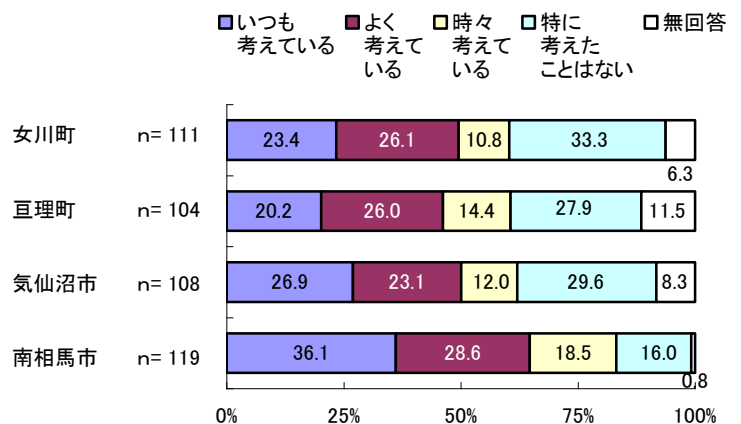
⑩ 地域の将来のことについて、「いつも考えている」は南相馬市 (32.8%) が4市町中で最も多くなっている。南相馬市では「よく考えている」(34.5%) も多く、両方を合わせた『考えている』(67.3%) は約3分の2を占めている。

⑪ 周囲の人の支えについて、「いつも考えている」は女川町 (36.0%) が4市町中で最も多くなっている。「いつも考えている」と「よく考えている」を合わせた『考えている』は、気仙沼市 (66.7%) で3分の2を占め、女川町 (61.2%) でも6割以上となっている。

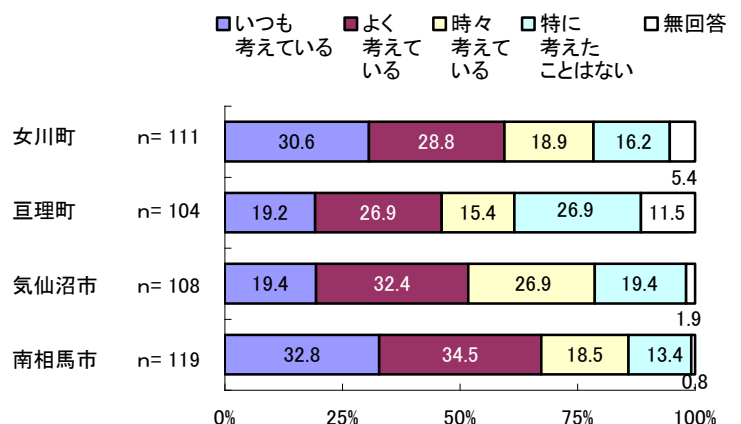
<調査地点別 ⑧津波がまた来るのではないかとこと>



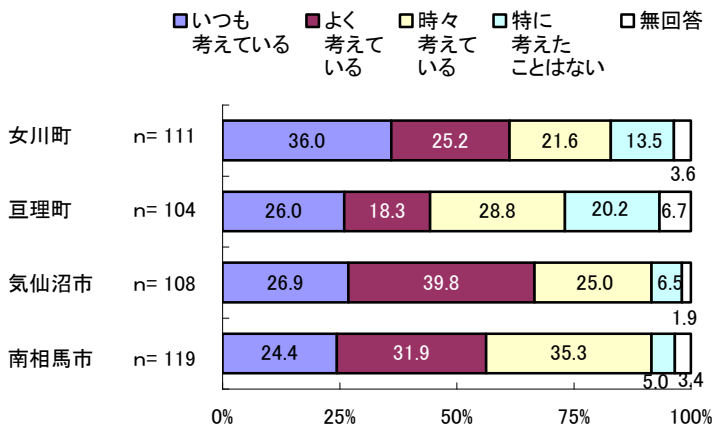
<調査地点別 ⑨子供たちの将来のこと>



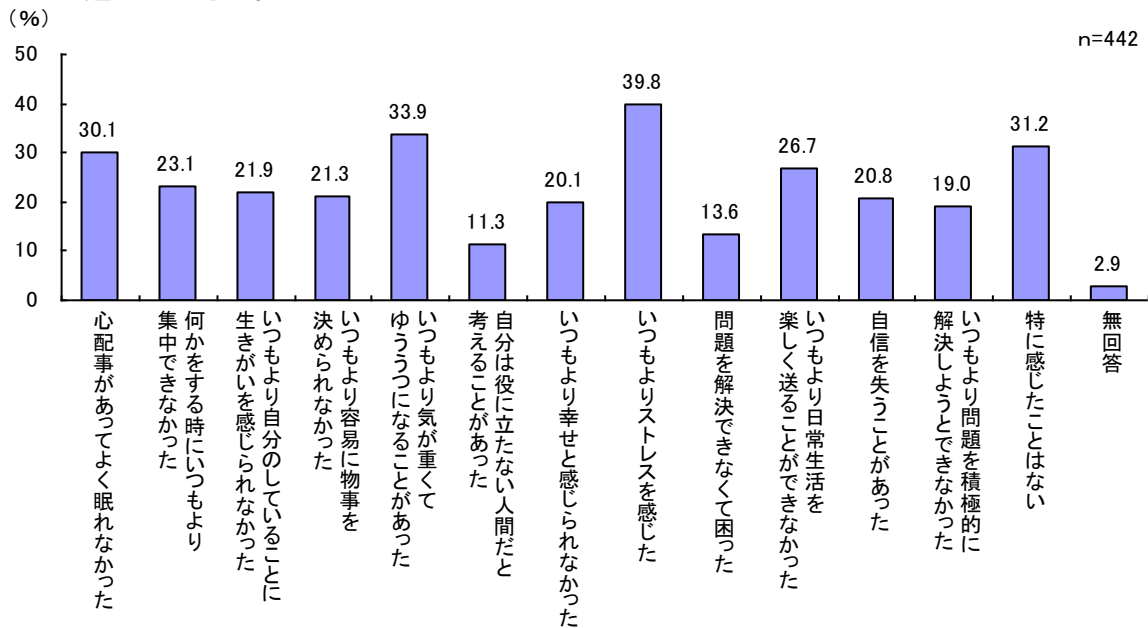
<調査地点別 ⑩地域の将来のこと>



<調査地点別 ⑪周囲の人の支え>



[問4] 最近、あなたは次のようなことをお感じになりますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



最近感じることは、「いつもよりストレスを感じた」(39.8%)が最も多く、4割となっている。以降、「いつもより気が重くてゆううつになることがあった」(33.9%)、「心配事があってよく眠れなかった」(30.1%)、「いつもより日常生活を楽しく送ることができなかった」(26.7%)、「何かをする時にいつもより集中できなかった」(23.1%)と続いている。

調査地点別では、女川町では「いつもよりストレスを感じた」(49.5%)と「いつもより気が重くてゆううつになることがあった」(41.4%)が多くなっている。

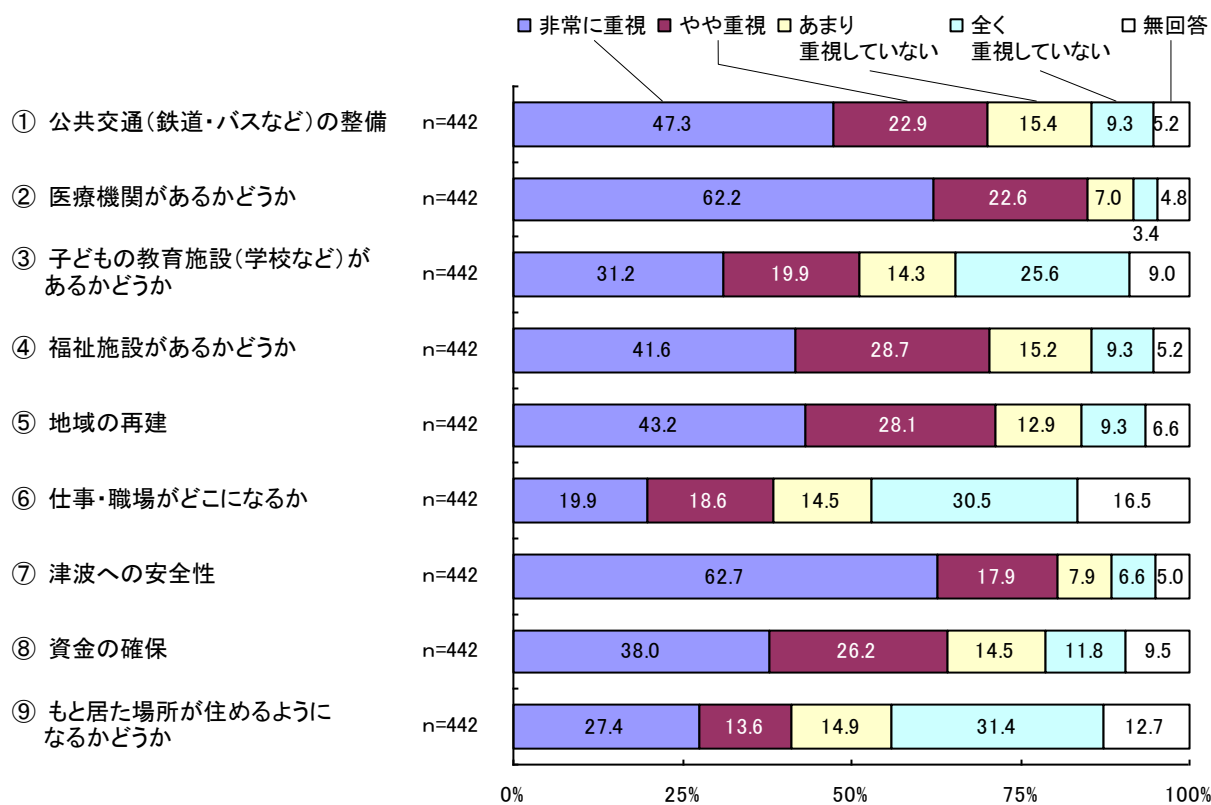
南相馬市では、「心配事があってよく眠れなかった」(37.0%)、「いつもより自分のしていることに生きがいを感ぜられなかった」(29.4%)、「いつもより幸せと感ぜられなかった」(27.7%)、「いつもより日常生活を楽しく送ることができなかった」(35.3%)等、多くの項目において4市町中で最も多くなっている。

<調査地点別 最近感じる事>

属性		n	心配事があってよく眠れなかった	集中できなかった	何かをする時にいつもより生きがいを感ぜられなかった	いつもより自分のしていることに決められなかった	いつもより容易に物事をゆううつになることがあった	いつもより気が重くて考えることがあった	自分は役に立たない人間だと考えることがあった	いつもより幸せと感ぜられなかった	問題を解決できなくて困った	いつもより日常生活を楽しく送ることができなかった	自信を失うことがあった	いつもより問題を積極的に解決しようとしてできなかった	特に感じたことはない	無回答
全体		442	30.1	23.1	21.9	21.3	33.9	11.3	20.1	39.8	13.6	26.7	20.8	19.0	31.2	2.9
調査地点	女川町	111	27.9	28.8	27.0	23.4	41.4	16.2	25.2	49.5	14.4	34.2	27.0	22.5	17.1	2.7
	亘理町	104	24.0	13.5	16.3	17.3	30.8	7.7	16.3	33.7	7.7	18.3	14.4	15.4	36.5	5.8
	気仙沼市	108	30.6	20.4	13.9	18.5	23.1	10.2	10.2	28.7	13.9	17.6	16.7	13.9	38.0	2.8
	南相馬市	119	37.0	28.6	29.4	25.2	39.5	10.9	27.7	46.2	17.6	35.3	24.4	23.5	33.6	0.8

2-5 今後の居住場所を考える上で重視すること

【問5】 今後あなたが住むところを考える上で、次にあげる項目について、それぞれどの程度重視していますか。あなたのお考えに最も近いものを1つずつお選びください。



今後の居住場所を考える上で重視することを訊ねた。

「非常に重視」は、⑦ 津波への安全性 (62.7%)、② 医療機関があるかどうか (62.2%) で6割以上を占め、① 公共交通(鉄道・バスなど)の整備 (47.3%)、⑤ 地域の再建 (43.2%)、④ 福祉施設があるかどうか (41.6%) でも4割以上を占めている。

「やや重視」は、④ 福祉施設があるかどうか (28.7%)、⑤ 地域の再建 (28.1%) で3割近くを占めている。

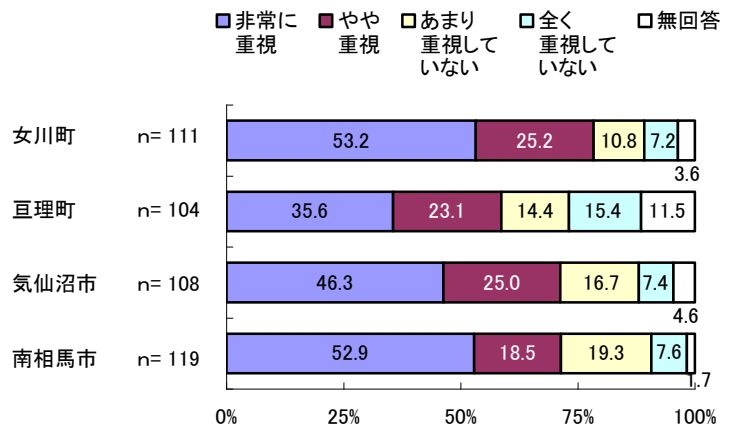
「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、② 医療機関があるかどうか (84.8%)、⑦ 津波への安全性 (80.6%)、⑤ 地域の再建 (71.3%)、④ 福祉施設があるかどうか (70.3%)、① 公共交通(鉄道・バスなど)の整備 (70.2%) で7割以上を占めている。

一方、「あまり重視していない」と「全く重視していない」を合わせた『重視しない』は、⑨ もと居た場所が住めるようになるかどうか (46.3%)、⑥ 仕事・職場がどこになるか (45.0%)、③ 子どもの教育施設(学校など)があるかどうか (39.9%) で4割前後と多くなっている。

①～⑨の各項目について、調査地点別にみている。

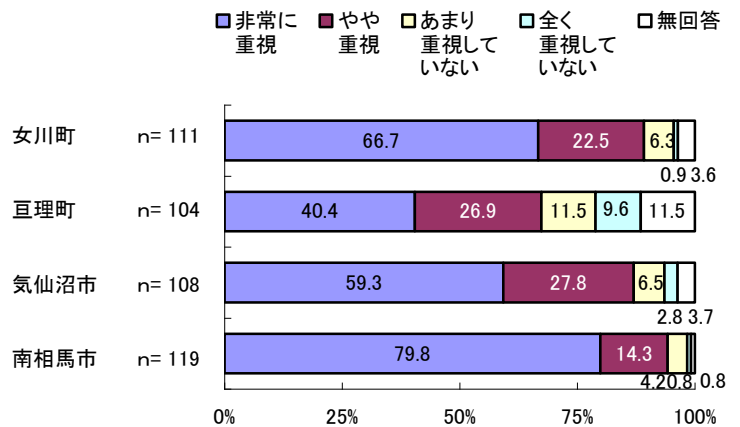
① 公共交通（鉄道・バスなど）の整備について、「非常に重視」は女川町（53.2%）と南相馬市（52.9%）では半数以上を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、女川町（78.4%）で4分の3以上を占めている。

<調査地点別 ①公共交通（鉄道・バスなど）の整備>



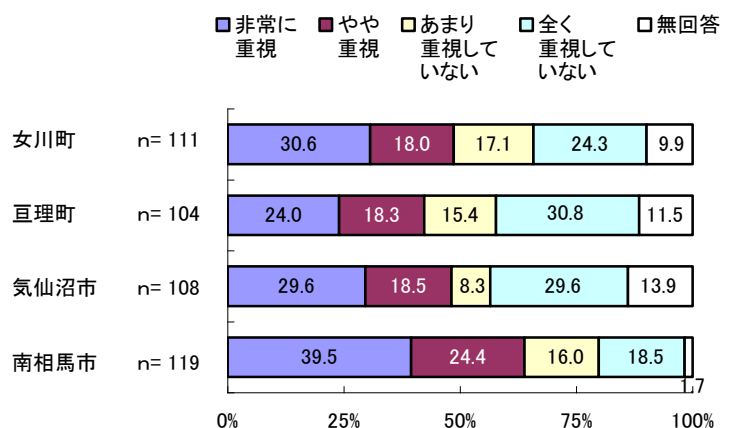
② 医療機関があるかどうかについて、「非常に重視」は南相馬市（79.8%）が4市町中で最も多く、8割を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、南相馬市（94.1%）、女川町（89.2%）、気仙沼市（87.1%）では9割前後を占めている。

<調査地点別 ②医療機関があるかどうか>



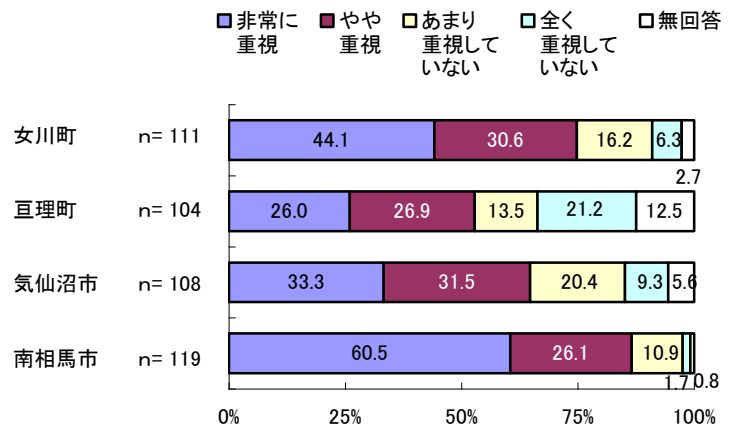
③ 子どもの教育施設（学校など）があるかどうかについて、「非常に重視」は南相馬市（39.5%）が4市町中で最も多く、4割を占め、「やや重視」（24.4%）を合わせた『重視する』（63.9%）も4市町の中で突出している。

<調査地点別 ③子どもの教育施設（学校など）があるかどうか>



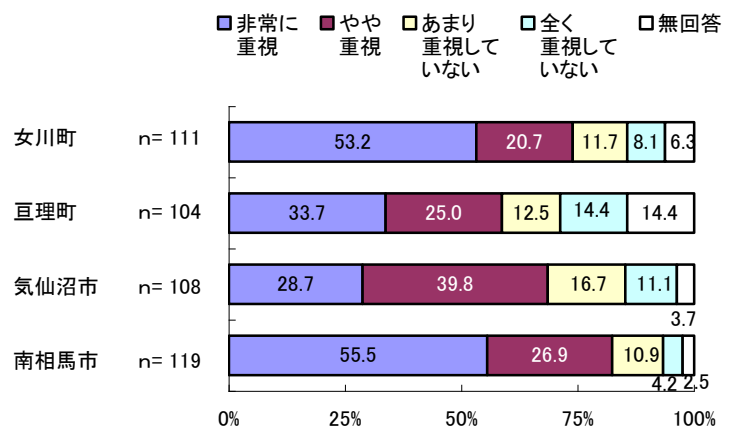
④ 福祉施設があるかどうかについて、「非常に重視」は南相馬市（60.5%）が4市町中で最も多く、6割を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』（86.6%）も4市町の中で突出している。

<調査地点別 ④福祉施設があるかどうか>



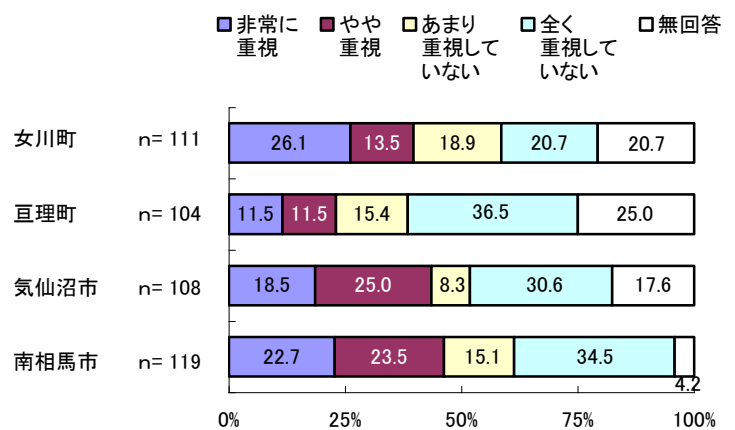
⑤ 地域の再建について、「非常に重視」は南相馬市（55.5%）と女川町（53.2%）では半数以上を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』も、南相馬市（82.4%）と女川町（73.9%）で多くなっている。

<調査地点別 ⑤地域の再建>



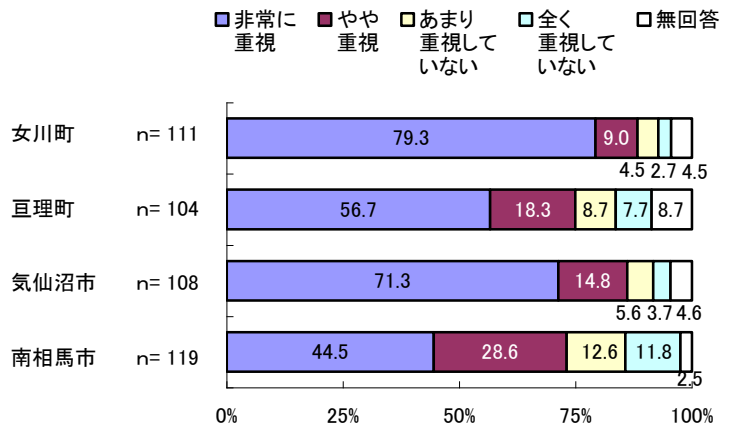
⑥ 仕事・職場がどこになるかについて、「非常に重視」は女川町（26.1%）が4市町中で最も多く、4分の1を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、南相馬市（46.2%）、気仙沼市（43.5%）、女川町（39.6%）では4割前後を占めている。

<調査地点別 ⑥仕事・職場がどこになるか>



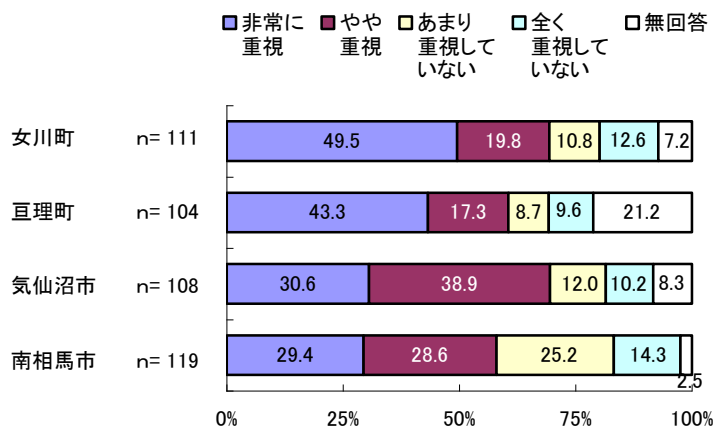
⑦ 津波への安全性について、「非常に重視」は女川町 (79.3%) が4市町中で最も多く8割を占め、気仙沼市 (71.3%) でも7割を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、女川町 (88.3%) と気仙沼市 (86.1%) では9割弱を占めている。

<調査地点別 ⑦津波への安全性>



⑧ 資金の確保について、「非常に重視」は女川町 (49.5%) では半数弱、亶理町 (43.3%) では約4割を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、気仙沼市 (69.5%) と女川町 (69.3%) で7割を占めている。

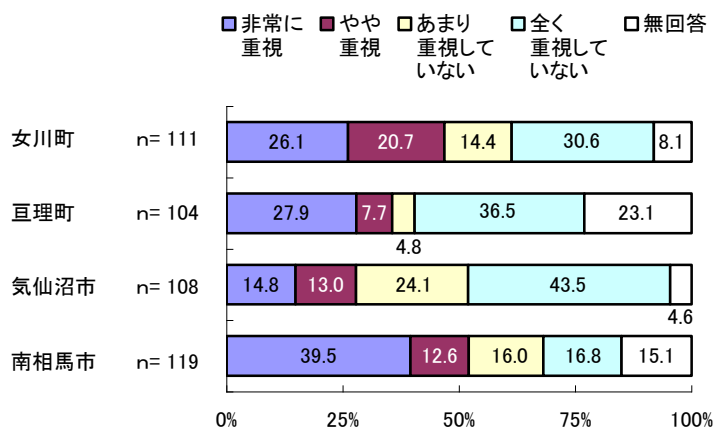
<調査地点別 ⑧資金の確保>



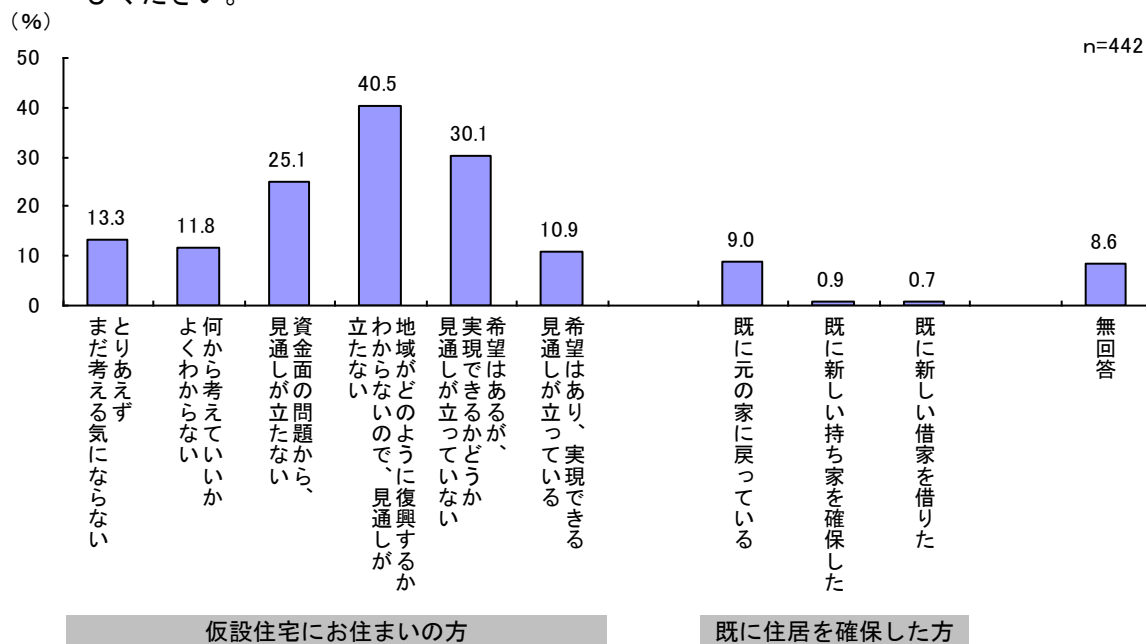
⑨ もと居た場所が住めるようになるかどうかについて、「非常に重視」は南相馬市 (39.5%) が4市町中で最も多く、4割を占めている。「非常に重視」と「やや重視」を合わせた『重視する』は、南相馬市 (52.1%) と女川町 (46.8%) では半数前後を占めている。一方、気仙沼市では「あまり重視していない」(24.1%)、「全く重視していない」(43.5%) 共に4市町中で最も多く、それらを合わせた『重視しない』(67.6%) は3分の2を占めている。

<調査地点別

⑨もと居た場所が住めるようになるかどうか>



[問6] 自宅を再建する上で、どのような問題がありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



自宅を再建する上での問題を訊ねた。

“仮設住宅にお住まいの方”では、「地域がどのように復興するかわからないので、見通しが立たない」(40.5%)が最も多く、以降、「希望はあるが、実現できるかどうか見通しが立っていない」(30.1%)、「資金面の問題から、見通しが立たない」(25.1%)と続いている。

“既に住居を確保した方”では、「既に元の家に戻っている」(9.0%)が最も多く、以降、「既に新しい持ち家を確保した」(0.9%)、「既に新しい借家を借りた」(0.7%)と続いている。

調査地点別では、女川町では「(仮設住宅にお住まいの方) 希望はあるが、実現できるかどうか見通しが立っていない」(38.7%)と「(仮設住宅にお住まいの方) とりあえずまだ考える気にならない」(25.2%)が多くなっている。

亘理町では「(仮設住宅にお住まいの方) 希望はあり、実現できる見通しが立っている」(22.1%)が多くなっている。

気仙沼市では「(仮設住宅にお住まいの方) 地域がどのように復興するかかわからないので、見通しが立たない」(48.1%)、「(仮設住宅にお住まいの方) 資金面の問題から、見通しが立たない」(38.0%)、「(仮設住宅にお住まいの方) 何から考えていいかわからない」(20.4%)、「(仮設住宅にお住まいの方) とりあえずまだ考える気にならない」(18.5%)が多くなっている。

南相馬市では「(既に住居を確保した方) 既に元の家に戻っている」(31.9%)が多くなっている。

<調査地点別 自宅を再建する上での問題点>

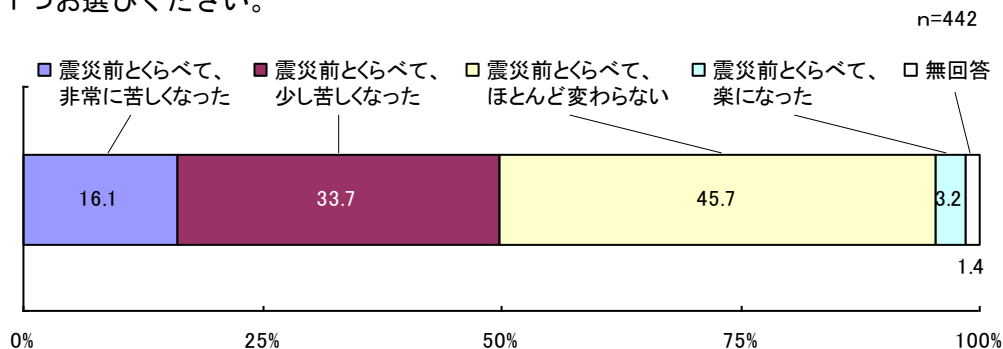
属性		n	(仮設住宅)					(住居確保)			無回答	
			まだ考え る気にな らない	よ く わ か ら な い か	見 通 し が 立 た な い	資 金 面 の 問 題 か ら	立 た な い の よ う に 復 興 す る か	見 通 し が 立 つ て い な い	希 望 は あ る が 、 実 現 で き る か ど う い な い	見 通 し が 立 つ て い る		希 望 は あ り 、 実 現 で き る
全体	442		13.3	11.8	25.1	40.5	30.1	10.9	9.0	0.9	0.7	8.6
調査地点	女川町	111	25.2	12.6	25.2	40.5	38.7	8.1	-	-	-	9.0
	亘理町	104	2.9	5.8	29.8	35.6	23.1	22.1	1.9	2.9	-	3.8
	気仙沼市	108	18.5	20.4	38.0	48.1	33.3	12.0	-	0.9	-	3.7
	南相馬市	119	6.7	8.4	9.2	37.8	25.2	2.5	31.9	-	2.5	16.8

[傾聴3] ○○ (上記の回答) について、具体的にどのようなことですか。

※Ⅲ. 「3-3. [傾聴3] ○○ (上記の回答) について、具体的にどのようなことですか」に記載

2-6 生活（家計）、収入源の変化

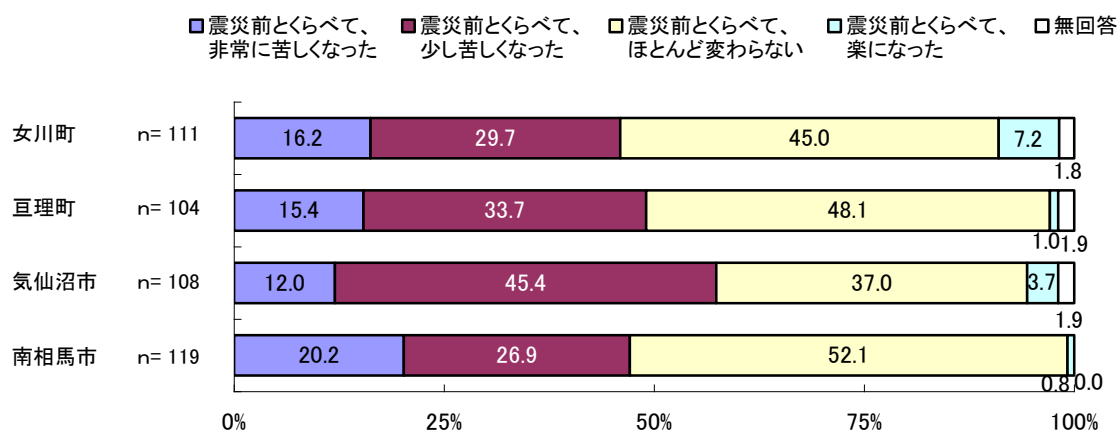
〔問7〕震災後のお宅の生活（家計）は、震災前に比べていかがですか。あてはまるものを1つお選びください。



震災後の生活（家計）については、「震災前とくらべて、ほとんど変わらない」（45.7%）が最も多く、半数弱を占めている。次いで「震災前とくらべて、少し苦しくなった」（33.7%）が3割強となり、「震災前とくらべて、非常に苦しくなった」（16.1%）と合わせた『震災前より苦しくなった』（49.8%）は約半数を占めている。

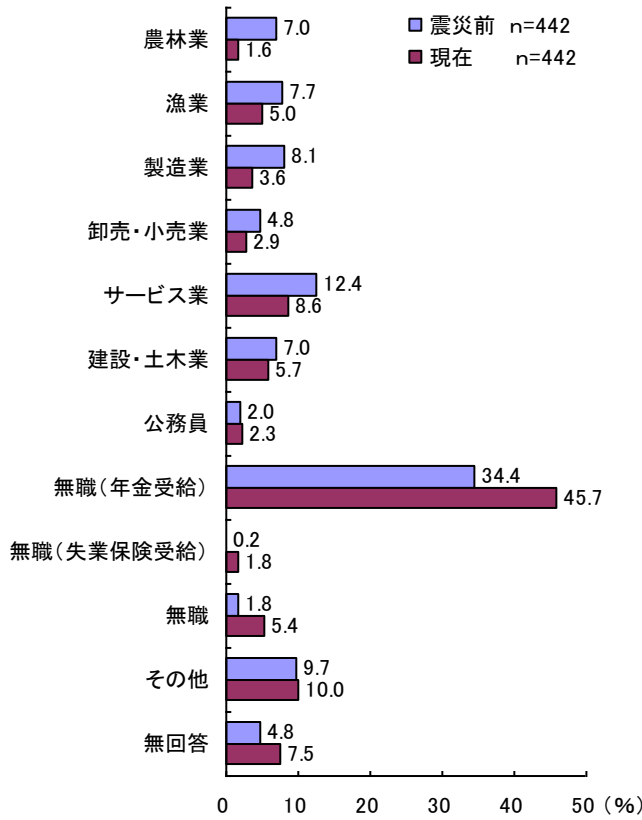
調査地点別にみると、「震災前とくらべて、非常に苦しくなった」は南相馬市（20.2%）が4市町中で最も多く、2割を占めている。「震災前とくらべて、非常に苦しくなった」と「震災前とくらべて、少し苦しくなった」を合わせた『震災前より苦しくなった』は、気仙沼市（57.4%）では6割弱を占め、4市町の中で突出している。

<調査地点別 震災前と比較した家計の状況>

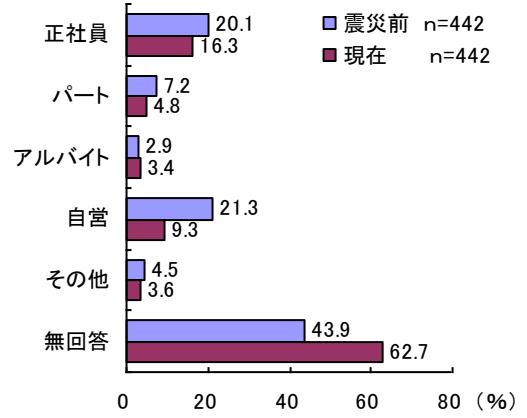


[問8] お宅の主たる収入源となるお仕事の状況について、震災前と震災による変化、現在のそれぞれにあてはまるものを1つずつお選びください。

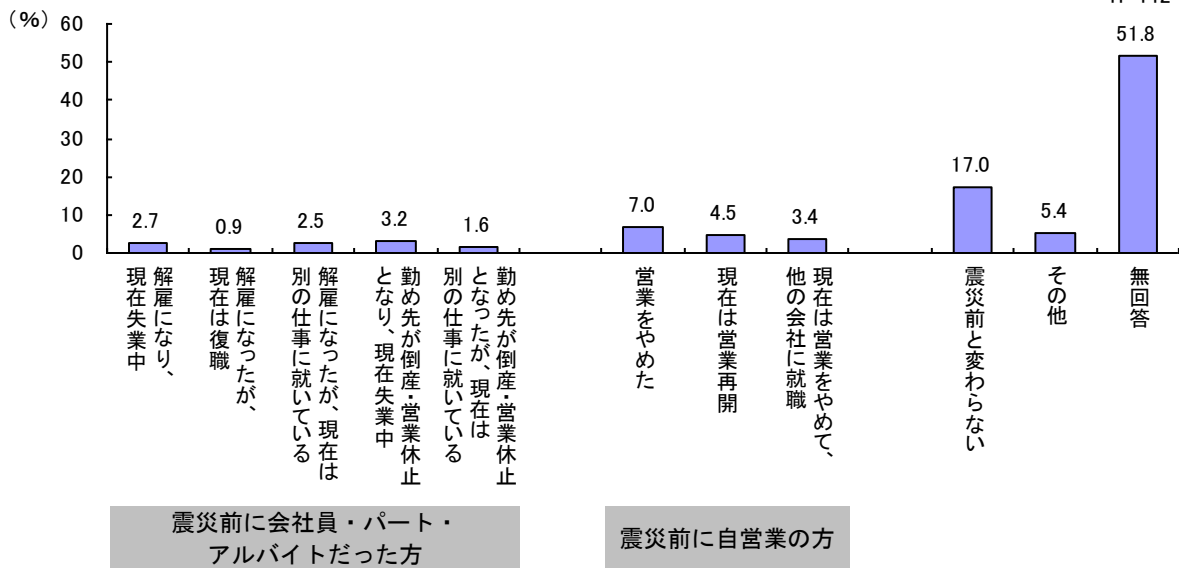
<主たる収入源>



<働き方>



<震災による変化>



収入源となる仕事の状況について、震災前と現在の変化を訊ねた。

まず、主たる収入源については、震災前は「無職（年金受給）」（34.4%）が最も多く、以降、「サービス業」（12.4%）、「その他」（9.7%）、「製造業」（8.1%）、「漁業」（7.7%）の順となっている。

現在は、「無職（年金受給）」（45.7%）が最も多く、以降、「その他」（10.0%）、「サービス業」（8.6%）、「建設・土木業」（5.7%）、無職（5.4%）の順となっている。

震災前→現在で増加しているのは「無職（年金受給）」（+11P）、「無職」（+4P）、「無職（失業保険受給）」（+2P）等の『無職』のみ。一方、減少しているのは「農林業」と「製造業」（各-5P）、「サービス業」（-4P）、「漁業」（-3P）、「卸売・小売業」（-2P）、「建設・土木業」（-1P）等、「公務員」以外の全ての項目で減少している。

働き方については、震災前は「自営」（21.3%）と「正社員」（20.1%）が2割を占め、「パート」（7.2%）がそれに続いている。

現在は、「正社員」（16.3%）が最も多く、以降「自営」（9.3%）、パート（4.8%）と続き、震災前と挙げられた項目のトップ3は同じだが、その割合はいずれも減少している。

震災前→現在で増加しているのは「アルバイト」（+1P）のみ（微増）。一方、減少しているのは「自営」（-12P）、「正社員」（-4P）、「パート」（-2P）。

震災による変化については、全体では「震災前と変わらない」（17.0%）が最も多くなっている。

震災前に会社員・パート・アルバイトだった方では、「勤め先が倒産・営業休止となり、現在失業中」（3.2%）が最も多く、以降、「解雇になり、現在失業中」（2.7%）、「解雇になったが、現在は別の仕事に就いている」（2.5%）と続いている。

震災前に自営業の方では、「営業をやめた」（7.2%）が最も多く、以降、「現在は営業再開」（4.5%）、「現在は営業をやめて、他の会社に就職」（3.2%）と続いている。

（※この間では無回答が半数以上を占め、各項目の構成比は少なくなっている。）

調査地点別の、震災前・現在の主たる収入源とその増減は下表のとおり。

主な増減についてみると、女川町では「無職（年金受給）」（+17P）が増加し、「サービス業」（-6P）と「漁業」「製造業」「卸売・小売業」（各-5P）が減少している。

亘理町では「無職（年金受給）」（+14P）が増加し、「農林業」（-15P）と「サービス業」「建設・土木業」（各-5P）が減少している。

気仙沼市では「無職」（+8P）と「無職（年金受給）」（+5P）が増加し、「製造業」（-9P）が減少している。

南相馬市では「無職（年金受給）」（+10P）が増加し、「農林業」（-6P）が減少している。

<調査地点別 震災前・現在の主たる収入源とその増減>

属性		n	農林業	漁業	製造業	卸売・小売業	サービス業	建設・土木業	公務員	（無職（年金受給）	（無職（失業保険受給）	無職	その他	無回答	
(震災前)		全体	442	7.0	7.7	8.1	4.8	12.4	7.0	2.0	34.4	0.2	1.8	9.7	4.8
調査地点	女川町	111	0.9	17.1	6.3	7.2	11.7	4.5	0.9	33.3	0.9	1.8	11.7	3.6	
	亘理町	104	16.3	4.8	5.8	2.9	15.4	11.5	1.9	26.9	0.0	1.0	10.6	2.9	
	気仙沼市	108	0.0	7.4	13.0	3.7	13.0	2.8	1.9	42.6	0.0	0.0	6.5	9.3	
	南相馬市	119	10.9	1.7	7.6	5.0	10.1	9.2	3.4	34.5	0.0	4.2	10.1	3.4	
(単位:%)															
(現在)		全体	442	1.6	5.0	3.6	2.9	8.6	5.7	2.3	45.7	1.8	5.4	10.0	7.5
調査地点	女川町	111	0.0	12.6	1.8	2.7	5.4	4.5	2.7	50.5	0.9	6.3	9.0	3.6	
	亘理町	104	1.0	2.9	4.8	1.9	10.6	6.7	1.9	40.4	1.0	3.8	9.6	15.4	
	気仙沼市	108	0.0	4.6	3.7	3.7	11.1	5.6	1.9	47.2	2.8	8.3	6.5	4.6	
	南相馬市	119	5.0	0.0	4.2	3.4	7.6	5.9	2.5	44.5	2.5	3.4	14.3	6.7	
(単位:%)															
(震災前→現在の増減)		全体	▲5	▲3	▲5	▲2	▲4	▲1	0	11	2	4	0	3	
調査地点	女川町	▲1	▲5	▲5	▲5	▲6	0	2	17	0	5	▲3	0		
	亘理町	▲15	▲2	▲1	▲1	▲5	▲5	0	14	1	3	▲1	13		
	気仙沼市	0	▲3	▲9	0	▲2	3	0	5	3	8	0	▲5		
	南相馬市	▲6	▲2	▲3	▲2	▲3	▲3	▲1	10	3	▲1	4	3		
(単位:ポイント)															

調査地点別の、震災前・現在の働き方とその増減は下表のとおり。

主な増減についてみると、女川町では「自営」(−13P)と「正社員」(−5P)が減少している。

亘理町では「自営」(−16P)と「正社員」(−7P)が減少している。

気仙沼市では「アルバイト」(+3P)が増加し、「自営」(−8P)と「パート」(−7P)が減少している。

南相馬市では「自営」(−11P)が減少している。

<調査地点別 震災前・現在の働き方とその増減>

属性		n	正社員	パート	アルバイト	自営	その他	無回答	
(震災前)		全体	442	20.1	7.2	2.9	21.3	4.5	43.9
調査地点	女川町	111	17.1	4.5	4.5	21.6	9.0	43.2	
	亘理町	104	28.8	8.7	1.9	21.2	1.9	37.5	
	気仙沼市	108	22.2	10.2	1.9	13.9	1.9	50.0	
	南相馬市	119	13.4	5.9	3.4	27.7	5.0	44.5	
(単位:%)									
(現在)		全体	442	16.3	4.8	3.4	9.3	3.6	62.7
調査地点	女川町	111	12.6	5.4	3.6	9.0	10.8	58.6	
	亘理町	104	22.1	6.7	2.9	4.8	1.9	61.5	
	気仙沼市	108	18.5	3.7	4.6	5.6	1.9	65.7	
	南相馬市	119	12.6	3.4	2.5	16.8	0.0	64.7	
(単位:%)									
(震災前→現在の増減)		全体	▲4	▲2	▲1	▲12	▲1	19	
調査地点	女川町		▲5	▲1	▲1	▲13	▲2	15	
	亘理町		▲7	▲2	▲1	▲16	▲0	24	
	気仙沼市		▲4	▲7	▲3	▲8	▲0	16	
	南相馬市		▲1	▲3	▲1	▲11	▲5	20	
(単位:ポイント)									

震災による変化を調査地点別にみると、女川町では「(震災前に会社員・パート・アルバイトだった方) 勤め先が倒産・営業休止となり、現在失業中」(5.4%)と、「(震災前に自営業の方) 営業をやめた」(11.7%)が多くなっている。

気仙沼市では「(震災前に会社員・パート・アルバイトだった方) 解雇になり、現在失業中」(5.6%)と「(震災前に会社員・パート・アルバイトだった方) 解雇になったが、現在は別の仕事に就いている」(6.5%)が多くなっている。

一方、南相馬市と亶理町では「震災前と変わらない」(南相馬市：22.7%、亶理町：20.2%)が比較的多くなっている。

(※但し、この間では無回答が半数以上を占め、各項目の構成比が少なくなっているため、調査地点別でも差が生じにくくなっている。)

<調査地点別 震災による変化>

属性	n	(震災前、勤め人)					(震災前、自営業)			震災前と変わらない	その他	無回答
		現解雇になり、失業中	現解雇になったが、復職	別の仕事に就いたが、現在は	勤め先が倒産・営業中止	勤め先が倒産・営業中止	営業をやめた	現在は営業再開	現在は営業をやめて、			
全体	442	2.7	0.9	2.5	3.2	1.6	7.2	4.5	3.2	17.0	5.4	51.8
調査地点												
女川町	111	1.8	-	3.6	5.4	2.7	11.7	5.4	0.9	16.2	9.0	43.2
亶理町	104	1.9	-	-	1.0	1.0	6.7	2.9	4.8	20.2	4.8	56.7
気仙沼市	108	5.6	3.7	6.5	1.9	1.9	4.6	2.8	1.9	8.3	0.9	62.0
南相馬市	119	1.7	-	-	4.2	0.8	5.9	6.7	5.0	22.7	6.7	46.2

[傾聴4] 今の仕事・収入の状況について、不満や問題はありますか。

※Ⅲ. 「3-4. [傾聴4] 今の仕事・収入の状況について、不満や問題はありますか」に記載

[傾聴5] 将来のご自身の生活について、どのようになれば落ち着いたと感じるでしょうか。

※Ⅲ. 「3-5. [傾聴5] 将来のご自身の生活について、どのようになれば落ち着いたと感じるでしょうか」に記載

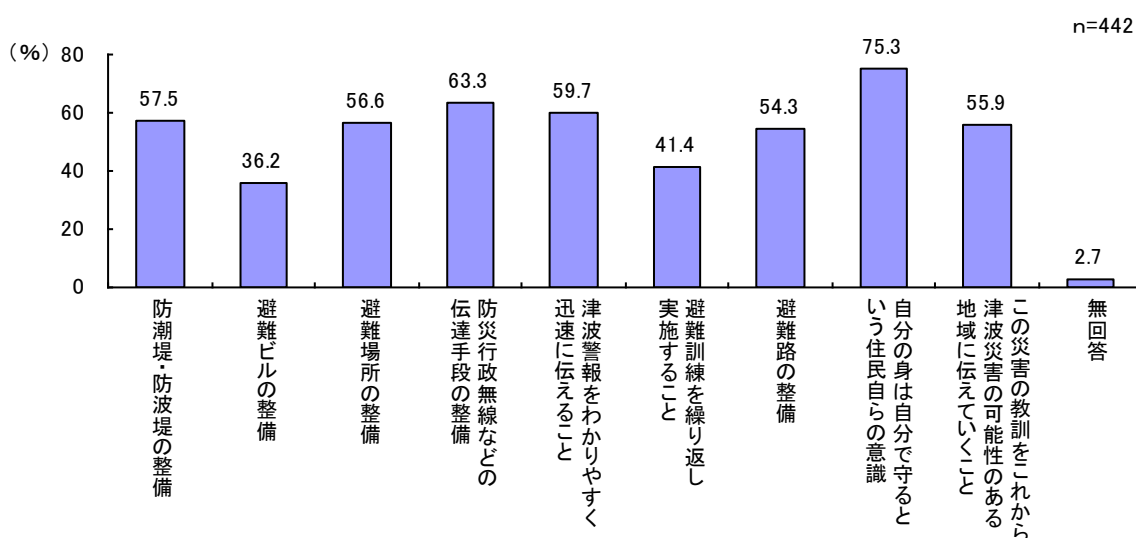
2-7 復興支援として必要な施策

[傾聴6] この地域の復興について、自治体が行なう施策など、どのようなことが必要だと思いますか（何が足りていないと思いますか）。

※Ⅲ. 「3-6. [傾聴6] この地域の復興について、自治体が行なう施策など、どのようなことが必要だと思いますか（何が足りていないと思いますか）」に記載

2-8 津波防災対策として重要な施策

[問9] 今後の津波防災対策として、何が大事だと思いますか。



今後の津波防災対策として重要だと思う施策は、「自分の身は自分で守るという住民自らの意識」(75.3%)が最も多く、4分の3の人が回答している。以降、「防災行政無線などの伝達手段の整備」(63.3%)、「津波警報をわかりやすく迅速に伝えること」(59.7%)、「防潮堤・防波堤の整備」(57.5%)、「避難場所の整備」(56.6%)、「この災害の教訓をこれから津波災害の可能性のある地域に伝えていくこと」(55.9%)、「避難路の整備」(54.3%)と続き、これらの項目にはいずれも半数以上の人回答している。

調査地点別にみると、女川町では「自分の身は自分で守るという住民自らの意識」(82.9%)が最も多く、以降、「この災害の教訓をこれから津波災害の可能性のある地域に伝えていくこと」(69.4%)、「防災行政無線などの伝達手段の整備」(68.5%)、「避難路の整備」(63.1%)と続いている。

亙理町では「自分の身は自分で守るという住民自らの意識」(80.8%)が最も多く、以降、「防潮堤・防波堤の整備」(75.0%)、「津波警報をわかりやすく迅速に伝えること」(69.2%)、「防災行政無線などの伝達手段の整備」(68.3%)、「避難路の整備」(66.3%)と続いている。女川町・亙理町ではほとんどの項目に多くの回答が寄せられた。

気仙沼市では「避難場所の整備」(69.4%)が最も多く、以降、「自分の身は自分で守るという住民自らの意識」(63.0%)、「防災行政無線などの伝達手段の整備」(56.5%)、「津波警報をわかりやすく迅速に伝えること」(55.6%)と続いている。

南相馬市では、「自分の身は自分で守るという住民自らの意識」(74.8%)が最も多く、以降、「この災害の教訓をこれから津波災害の可能性のある地域に伝えていくこと」(61.3%)、「防災行政無線などの伝達手段の整備」(60.5%)、「防潮堤・防波堤の整備」(58.0%)と続いている。

<調査地点別 今後の津波防災対策として大事だと思うこと>

属性		n	防潮堤・防波堤の整備	避難ビルの整備	避難場所の整備	防災行政無線などの伝達手段の整備	津波警報をわかりやすく迅速に伝えること	避難訓練を繰り返し実施すること	避難路の整備	自分の身は自分で守るという住民自らの意識	この災害の教訓を伝えていくこと	無回答
全体		442	57.5	36.2	56.6	63.3	59.7	41.4	54.3	75.3	55.9	2.7
調査地点	女川町	111	62.2	40.5	62.2	68.5	60.4	47.7	63.1	82.9	69.4	3.6
	亙理町	104	75.0	45.2	57.7	68.3	69.2	53.8	66.3	80.8	58.7	4.8
	気仙沼市	108	35.2	45.4	69.4	56.5	55.6	25.9	50.9	63.0	33.3	0.9
	南相馬市	119	58.0	16.0	38.7	60.5	54.6	38.7	38.7	74.8	61.3	1.7

[傾聴7] 特に大事だと思うこと、他に大事だと思うことはありますか。

※Ⅲ. 「3-7. [傾聴7] 特に大事だと思うこと、他に大事だと思うことはありますか」に記載

2-9 ほか

[傾聴8] 傾聴1~7に該当しないお話について(必要な場合に記入)

※Ⅲ. 「3-8. [傾聴8] 傾聴1~7に該当しないお話について(必要な場合に記入)」に記載

III 使用調査票

第1回 東日本大震災の復興に関する調査

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
株式会社サーベイリサーチセンター

■ 調査票管理用記入欄 ■

市町村		大字	
SQN		番号等	
調査員氏名		協力者氏名	

【問1】 いま、地域の雰囲気はどのような状況ですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 落ち着いてきた | 3. 震災後と変わらない |
| 2. 少し落ち着いてきた | |

【傾聴1】 いつごろから、どのようなことが変わってきたと思いますか。

ポイント

- ・ 変わってきたタイミング（時期、きっかけとなった出来事）
- ・ 変わってきたことは何か

傾聴回答イメージ

- * 年が明けてから、なんとなく落ち着いた気がする
- * 震災後1年たって、3.11を機に気持ちの整理がつきつつある
- * テレビであまり震災の報道がされなくなってから、まわりの人と前ほど震災のことを話さなくなった。前向きな話題が増えた

【問2】震災前と現在とでは、まわりの人とのつきあいに変化がありましたでしょうか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つずつお選びください。

	1. 増える 感じる ように	2. 変わらない	3. 減った 感じる ように	4. 元々 ない
震災前に住んでいた家の、近所の人とのつきあい	1	2	3	4
地元の友人とのつきあい	1	2	3	4
地元以外の友人とのつきあい方	1	2	3	4
職場・仕事上でのつきあい	1	2	3	4
家族・親族とのつきあい	1	2	3	4
外部の人たち（ボランティアで来た人など）とのつきあい	1	2	3	4

【傾聴2】〇〇（上記項目で変化があったこと）について具体的に、どのようなことですか。

ポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所、集落の人たちとの付き合い方 ・地元の友人との付き合い方 ・ボランティア等、外部の支援者との付き合い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元以外の友人とのつきあい方 ・遠くの親戚との付き合い方
傾聴回答イメージ	
<ul style="list-style-type: none"> * 地元の交流がなくなって寂しい * 交流する気力がなくなっている * 元々あまり交流はないので変わらない、 * 今は他の地域の方など新しい交流ができた 	<ul style="list-style-type: none"> * 家族との交流が途絶え生活できない／支えてほしい * 外部支援者に頼っている

【問3】震災から1年たった現在、どのようなことをお考えますか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つずつお選びください。

	1. いつも考えている	2. よく考えている	3. 時々考えている	4. 特に考えたことはない
将来どこに住むかということ	1	2	3	4
商売・仕事・収入のこと	1	2	3	4
自分の健康のこと	1	2	3	4
昔の生活のこと	1	2	3	4
以前の近所づきあいのこと	1	2	3	4
将来の生活のこと	1	2	3	4
震災・津波で亡くなられた方のこと	1	2	3	4
津波がまた来るのではないかとということ	1	2	3	4
子供たちの将来のこと	1	2	3	4
地域の将来のこと	1	2	3	4
周囲の人の支え	1	2	3	4

【問4】最近、あなたは次のようなことをお感じになりますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 心配事があってよく眠れなかった
2. 何かをする時にいつもより集中できなかった
3. いつもより自分のしていることに生きがいを感じられなかった
4. いつもより容易に物事を決められなかった
5. いつもより気が重くてゆううつになることがあった
6. 自分は役に立たない人間だと考えることがあった
7. いつもより幸せと感じられなかった
8. いつもよりストレスを感じた
9. 問題を解決できなくて困った
10. いつもより日常生活を楽しく送ることができなかった
11. 自信を失うことがあった
12. いつもより問題を積極的に解決しようと思えなかった
13. 特に感じたことはない

【問5】 今後あなたが住むところを考える上で、次にあげる項目について、それぞれの程度重視していますか。あなたのお考えに最も近いものを1つずつお選びください。

	1. 非常に重視	2. やや重視	3. あまり重視していない	4. 全く重視していない
公共交通（鉄道・バスなど）の整備	1	2	3	4
医療機関があるかどうか	1	2	3	4
子どもの教育施設（学校など）があるかどうか	1	2	3	4
福祉施設があるかどうか	1	2	3	4
地域の再建	1	2	3	4
仕事・職場がどこになるか	1	2	3	4
津波への安全性	1	2	3	4
資金の確保	1	2	3	4
もと居た場所が住めるようになるかどうか	1	2	3	4

【問6】 自宅を再建する上で、どのような問題がありますか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

仮設住宅にお住まいの方
1. とりあえずまだ考える気にならない 2. 何から考えていいかわからない 3. 資金面の問題から、見通しが立たない 4. 地域がどのように復興するかわからないので、見通しが立たない 5. 希望はあるが、実現できるかどうか見通しが立っていない 6. 希望はあり、実現できる見通しが立っている
既に住居を確保した方
7. 既に元の家に戻っている 8. 既に新しい持ち家を確保した 9. 既に新しい借家を借りた

【傾聴3】 ○○（上記の回答）について、具体的にどのようなことですか。

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・再建希望と家計状況 など
傾聴回答イメージ
*元の場所には戻りたいが、補修工事も必要だし、今の収入見通しでは厳しい *家を建てれば解決すると思っていたが、実際に入居してみて、そうでもないことを痛感した

【問7】震災後のお宅の生活（家計）は、震災前にくらべていかがですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | |
|---|
| 1. 震災前とくらべて、非常に苦しくなった
2. 震災前とくらべて、少し苦しくなった
3. 震災前とくらべて、ほとんど変わらない
4. 震災前とくらべて、楽になった |
|---|

【問8】お宅の主たる収入源となるお仕事の状況について、震災前と震災による変化、現在のそれぞれにあてはまるものを1つずつお選びください。

震災前	震災による変化	現在
（主たる収入源） 1. 農林業 2. 漁業 3. 製造業 4. 卸売・小売業 5. サービス業 6. 建設・土木業 7. 公務員 8. 無職（年金受給） 9. 無職（失業保険受給） 10. 無職 11. その他 （具体的に ）	＜震災前に会社員・パート・アルバイトだった方＞ 1. 解雇になり、現在失業中 2. 解雇になったが、現在は復職 3. 解雇になったが、現在は別の仕事に就いている 4. 勤め先が倒産・営業休止となり、現在失業中 5. 勤め先が倒産・営業休止となったが、現在は別の仕事に就いている ＜震災前に自営業の方＞ 6. 営業をやめた 7. 現在は営業再開 8. 現在は営業をやめて、他の会社に就職 9. 震災前と変わらない 10. その他 （具体的に ）	（主たる収入源） 1. 農林業 2. 漁業 3. 製造業 4. 卸売・小売業 5. サービス業 6. 建設・土木業 7. 公務員 8. 無職（年金受給） 9. 無職（失業保険受給） 10. 無職 11. その他 （具体的に ）
（働き方） 1. 正社員 2. パート 3. アルバイト 4. 自営 5. その他 （具体的に ）		（働き方） 1. 正社員 2. パート 3. アルバイト 4. 自営 5. その他 （具体的に ）

【傾聴4】今の仕事・収入の状況について、不満や問題はありますか。

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> • 慣れ親しんだ仕事に就けているか • 仕事仲間に変化はあるか • 自分の技術が生かせる仕事につけているか • 長期的な就業かどうか • 期待する給与が得られているか
傾聴回答イメージ
<p>* 働き口がなくなり、この先どうしていいかわからない</p> <p>* 新しい働き口は見つかったものの、今までやってきた仕事とはことなり、つらい</p> <p>* なんとか元の職場を立て直すことができたが、同僚が皆いなくなってしまうと続けることが不安</p>

【傾聴5】将来のご自身の生活について、どのようになれば落ち着いたと感じるでしょうか。

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> • 「復興」の定義——復興と聞いてイメージするものは何か • 「復興」に向かうと思えるか——復興したと言えるのはどのようになった時か • 「落ち着いた」と思えるようになるポイントは、「自宅」か「収入」か「地域の再生」か
傾聴回答イメージ
<p>* ようやく周りの景色も少しずつ変わってきた。この調子で復興できると思う</p> <p>* 建物が戻っても、失った家族は戻ってこない。自分にとって「復興」はできない</p>

【傾聴6】 この地域の復興について、自治体が行なう施策など、どのようなことが必要だと思いますか（何が足りていないと思いますか）。

ポイント
<ul style="list-style-type: none">• 自治体が行なう復興支援として何が必要か• 自治体以外が行なう取組では何が必要か
傾聴回答イメージ
<ul style="list-style-type: none">* 補償の手続きをもっとわかりやすくしてほしい* とにかく、がれきの処理を早急に終わらせて、もともとの場所に帰らせてほしい* マスメディアはもっと被災地の現実に注目してほしい

【問9】 今後の津波防災対策として、何が大事だと思いますか。

1. 防潮堤・防波堤の整備
2. 避難ビルの整備
3. 避難場所の整備
4. 防災行政無線などの伝達手段の整備
5. 津波警報をわかりやすく迅速に伝えること
6. 避難訓練を繰り返し実施すること
7. 避難路の整備
8. 自分の身は自分で守るという住民自らの意識
9. この災害の教訓をこれから津波災害の可能性のある地域に伝えていくこと

【傾聴7】 特に大事だと思うこと、他に大事だと思うことはありますか。

ポイント
・津波の経験を経て、今後何が大事だと感じているか
傾聴回答イメージ
<p>* 防波堤があっても、想定より高い波がくるかもしれないから、どんな高い波が来ても、すばやく逃げられる避難路の整備が大事だと思う</p> <p>* 日ごろからの訓練が1番大事だと思う</p> <p>* どこにいるときに津波が来るかわからないので、どこにいても自分の身は自分で守る意識が大切</p>

F 1 性別（○は一つ）

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢

	歳
--	---

F 3 震災前と現在の同居家族の人数（ご自身を含め）

震災前	現在
人	人

F 4 震災前と現在について、あなたと同居している方をお答えください。（○はいくつでも）

震災前	現在
1 一人暮らし	1 一人暮らし
2 自分の祖父母	2 自分の祖父母
3 自分の親	3 自分の親
4 自分の配偶者	4 自分の配偶者
5 自分の兄弟姉妹	5 自分の兄弟姉妹
6 自分の子ども	6 自分の子ども
7 自分の孫	7 自分の孫

F 5 震災前のお宅の地域名（町字、集落名）をお教えてください。

--

F 6 今回の震災前のお宅の住居は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1 自分の土地に自分の家（持ち家）	6 アパート・マンション・団地（賃貸）
2 他人の土地に自分の家（借地持ち家）	7 間借り・下宿
3 他人の土地に他人の家（一戸建て借家）	8 社宅・寮・官舎
4 県営住宅・市営住宅	9 その他
5 マンション等集合住宅（自己所有）	

F 7 あなたは、今回の震災前のお宅にお住まいになってから、およそ何年になりますか。（○は1つ）

1 1年未満	4 5年以上～10年未満
2 1年以上～2年未満	5 10年以上～20年未満
3 2年以上～5年未満	6 20年以上

F 8 この度の地震や津波で、あなたのご自宅やご家族はどのような被害を受けましたか。(〇は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1 津波によって自宅が流出または全壊・全焼した
2 津波によって自宅が半壊した
3 津波によって一部損壊した
4 地震の揺れによって全壊した
5 地震の揺れによって半壊した
6 地震の揺れによって一部損壊した
7 その他(具体的に：
8 わからない |) |
|---|---|

F 9 お宅では、今回の震災のために、住宅の被害以外でどのような被害がありましたか。(いくつでも〇)

- | | |
|--|---|
| 1 家族がケガをした(本人も含む)
2 家族が亡くなった
3 ペットが死傷したり、いなくなったりした
4 家具や食器類などが倒れたり、壊れたりした
5 自動車がこわれた
6 畑や農作物に被害が出た
7 停電、断水、ガスが使えなかった
8 その他(具体的に：
9 特に被害はなかった |) |
|--|---|

【傾聴8】 傾聴1～7に該当しないお話について(必要な場合に記入)

これで調査は終わりです。
ご協力ありがとうございました。

**第1回 東日本大震災の復興に関する調査
調査結果報告書**

平成 24 年 12 月

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

株式会社サーベイリサーチセンター